

# スポーツ施設等の充実を図るための調査研究

令和7年3月

愛知県 幸田町  
一般財団法人 地方自治研究機構

# スポーツ施設等の充実を図るための調査研究

令和7年3月

愛知県 幸田町

一般財団法人 地方自治研究機構



## はじめに

昨今のわが国の地方行政を取り巻く環境は、少子化に伴う本格的な人口減少・高齢化の進行、社会全体のデジタル化の急速な進展、各種災害の激甚化、働き方やライフスタイルの多様化、インバウンドの急増、脱炭素化やSDGs等の地球規模の潮流など、これまでとは大きく異なる変化が見られます。

こうした中で、地方公共団体は、自治体DXの推進、人材の確保・育成、経営マネジメントの強化等を図りつつ、住民ニーズを的確に捉え、地域の特性を活かしながら、住民福祉の向上、地域産業の振興、まちづくりの推進、防災対策の強化、自然環境の保全、共生社会の実現等に関する諸課題に、自らの判断と責任において取り組んでいくことが求められています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の団体が抱える課題を取り上げ、当該団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は6つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

幸田町のスポーツ施設や文化施設には、町民のウェルビーイングを向上させるために解決すべき諸課題が存在しています。そこで、幸田町では、それらの課題に対する解決策として、屋外スポーツ施設では「菱池遊水地上の緑地運動場」、屋内スポーツ施設では「総合体育館」、また、文化施設では「(仮称)幸田町郷土博物館」の新設の検討がそれぞれ進められています。本調査研究は、その背景や課題等を踏まえ、幸田町が今後スポーツ施設等の検討を進めていくにあたっての基礎調査を実施したものです。

本調査研究の企画及び実施に当たりましては、調査研究委員会の委員長及び委員を始め、関係者の皆様から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本調査研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の助成金を受けて、幸田町と当機構とが共同で行ったものであり、ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば大変幸いです。

令和7年3月

一般財団法人 地方自治研究機構  
理事長 三輪和夫



# 目次

序章 調査研究の概要 .....	1
1 調査研究の背景と目的 .....	3
2 調査研究の流れと全体像 .....	4
3 調査研究体制 .....	6
第1章 幸田町の現状 .....	7
1 幸田町の概要 .....	9
2 幸田町のスポーツ施設と文化施設 .....	16
3 屋外・屋内既存スポーツ施設に関する他自治体との比較・分析 .....	24
第2章 総合体育館整備の方向性検討結果 .....	29
1 事例調査を基にした幸田町における総合体育館の諸室構成・施設規模の整理 .....	31
2 スポーツ施設以外の機能を導入した総合体育館の事例 .....	34
3 整備費の類推 .....	37
4 官民連携の動きと民間活力活用手法の概要 .....	38
5 その他事業化に向けて検討すべき事項 .....	40
第3章 屋外スポーツ施設整備の方向性検討結果 .....	41
1 屋外スポーツ施設整備に向けた前提条件の整理 .....	43
2 菱池遊水地の上部整備有無による屋外スポーツ施設の充足度の比較・分析 .....	44
3 屋外スポーツ施設整備の方向性まとめ .....	47
第4章 調査研究を終えて .....	49
調査研究委員会名簿 .....	53
委員長コメント .....	57
参考資料 .....	63
参考1 幸田町のスポーツ施設利用者の声 調査結果報告書 .....	65
参考2 文化施設に関する現状等の整理について .....	79



## 序章 調査研究の概要





## 序章 調査研究の概要

### 1 調査研究の背景と目的

幸田町では、平成 28(2016)年度から 10 年間の幸田町が目指すべき将来像等を定めた第 6 次幸田町総合計画において、「きたえよう！こころとからだ」と掲げ、町を挙げてスポーツや生涯学習に取り組み、住民が健康で文化的な暮らしを送ることを推進している。

また、近年、幸田町への若い世代の転入超過が続く一方で、同時に高齢化も顕著に進行しており、こどもから高齢者までの全世代が、スポーツや文化等を通じて、幸田町で元気に生きがいを持って暮らすことができるような環境整備が必要である。

しかし、幸田町のスポーツ施設や文化施設には、町民のウェルビーイングを向上させるために解決すべき諸課題が存在している。まず、スポーツ施設では、幸田町には計 13 のスポーツ施設（第 1 章参照）が存在するものの、施設数が不足しており、予約が取りづらい等の問題が生じている。主たる屋内スポーツ施設である「勤労者体育センター」も、観客席がないことから、館内での応援や大きなスポーツ大会の開催、スポーツ観戦を楽しむことなどができない状況にある。また、文化施設では、代表的な施設として、幸田町の歴史に触れることができる「幸田町郷土資料館」が存在しているが、施設の老朽化、狭隘化により、資料の十分な保存環境並びに望ましい展示環境の確保が難しいなどの課題が生じている。

そこで、幸田町では、それらの課題に対する解決策として、屋外スポーツ施設では「菱池遊水地上の緑地運動場」、屋内スポーツ施設では「総合体育館」、また、文化施設では「(仮称)幸田町郷土博物館」の新設の検討がそれぞれ進められている。

本調査研究では、上記の背景を踏まえ、以下の 3 点の前提に立ち、次ページの 4 点を目的に掲げ、幸田町が今後スポーツ施設の検討を進めていくにあたっての基礎調査を実施することとした。

#### ■本調査研究の前提

- ①本調査研究は、新たなスポーツ施設の建設の是非や機能、その目指すべき姿などを論じるものではなく、それらの検討に向けた事前準備として、必要な検討材料や考えられる選択肢等を整理することをねらいとする。
- ②本調査研究における「スポーツ」は、競技会における好成績を目指して、自らの能力と技術の限界に挑む「競技スポーツ」と、老若男女を問わず、誰もが気軽に運動を楽しむ「エンジョイスports」の、両方を含むものとする。
- ③スポーツ愛好者には、町営スポーツ施設に限らず、民営施設や近所の公園、空き地等で自由にスポーツを楽しんでいる層も存在する。しかしながら、それらの町営スポーツ施設以外の状況等を把握することは困難であるため、本調査研究においては「スポーツ施設として整備された町営施設のみ」を調査・検討の対象とする。


■本調査研究の目的

- ①幸田町のスポーツ施設及び文化施設に関する現状を整理すること
- ②スポーツ施設に関し、同規模の他自治体との比較、スポーツ施設利用者の声の収集等の各種調査を通じて、幸田町のスポーツ施設が抱える課題等を洗い出すこと
- ③「総合体育館」について、一般的な事例等を踏まえ、求められる機能と規模、想定される事業手法の選択肢、概算整備費を検討する上での基礎的情報等を提示すること
- ④「菱池遊水地上の緑地運動場」の基本構想を踏まえた屋外スポーツ施設の充足状況を評価すること

2 調査研究の流れと全体像

調査研究の背景と目的に基づき、実施した調査研究の流れと全体像を下記に示す。

図表 序-2-1 調査研究の流れと全体像

調査項目		実施事項								
整理状況	① 現状の整理	✓ 幸田町のスポーツ施設及び文化施設に関する現状を整理								
各種調査・分析	②-1 スポーツ施設利用者の声の収集	✓ 幸田町内のスポーツ施設利用者に対してアンケートを実施し、利用者の声を収集 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td>調査対象</td> <td>幸田町のスポーツ施設(計13施設)及び一般開放された小中学校体育館(計9校)の利用者</td> </tr> <tr> <td>調査期間</td> <td>令和6年5月14日(火)～令和6年6月13日(木)</td> </tr> <tr> <td>調査手法</td> <td>窓口等で用紙を配布し、WEBまたは紙で回答</td> </tr> <tr> <td>回収数</td> <td>106件(うちWEB47件、紙59件)</td> </tr> </table> 	調査対象	幸田町のスポーツ施設(計13施設)及び一般開放された小中学校体育館(計9校)の利用者	調査期間	令和6年5月14日(火)～令和6年6月13日(木)	調査手法	窓口等で用紙を配布し、WEBまたは紙で回答	回収数	106件(うちWEB47件、紙59件)
	調査対象	幸田町のスポーツ施設(計13施設)及び一般開放された小中学校体育館(計9校)の利用者								
調査期間	令和6年5月14日(火)～令和6年6月13日(木)									
調査手法	窓口等で用紙を配布し、WEBまたは紙で回答									
回収数	106件(うちWEB47件、紙59件)									
②-2 他自治体との比較・分析	✓ 人口1万人あたりの施設数を指標化し、他自治体と比較 ✓ 比較対象自治体として、愛知県内で幸田町と人口規模が同程度の7自治体(新城市、高浜市、岩倉市、弥富市、東郷町、東浦町、武豊町)、人口構成が類似した2自治体(日進市、みよし市)及び周辺代表自治体(田原市)を選定									
今後の方向性の検討	③-1 「総合体育館」整備の方向性検討	✓ ①から②-2までの調査結果及び他事例調査から、幸田町の総合体育館に必要と思われる諸室構成・施設規模を整理 ✓ 他事例の比較分析から必要な整備費を類推 ✓ 一般的に総合体育館に用いられる民活手法の概要を整理								
	③-2 「屋外スポーツ施設」整備の方向性検討	✓ ①から②-2までの調査結果をふまえ、幸田町の屋外スポーツ施設のあり方を検討 ✓ 将来的に整備すべき屋外スポーツ施設について、ターゲットや施設規模・構成を提案 ✓ 幸田町が別途策定する菱池遊水地上部の基本構想の内容も考慮								
報告書	④ 報告書作成	✓ 調査研究の成果をまとめた報告書を作成								

出所：一般財団法人地方自治研究機構 作成

調査研究の全体スケジュールを以下に示す。

図表 序-2-2 調査研究の全体スケジュール

幸田町「スポーツ施設等の充実を図るための調査研究」年間スケジュール表

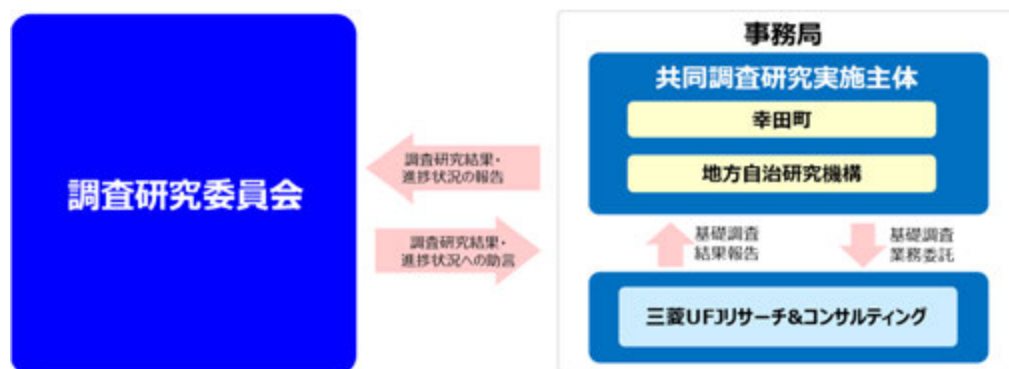
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
(1) 町のスポーツ施設の現状分析・課題の整理																						
1) 屋内スポーツ施設																						
2) 屋外スポーツ施設																						
(2) 他自治体との比較・分析																						
1) 比較対象の設定																						
2) 比較・分析																						
(3) 既存施設利用者の声の収集																						
1) 調査対象・手法等の検討、調査票の作成																						
2) 調査実施																						
3) まとめ																						
(4) 総合体育館の整備に向けた検討																						
1) 総合体育館整備に関するニーズの整理																						
2) 想定される機能・規模の整理																						
3) 想定される事業手法の整理																						
(5) 町の屋外スポーツ施設のあり方検討																						
1) 緑地運動場(菱池遊水地上部)の整備構想の整理																						
2) 緑地運動場のほかに整備すべき屋外スポーツ施設の検討																						
(6) 文化施設に関する現状整理																						
1) 文化施設に関する現状整理																						
(7) 幸田町における今後の方向性等の検討																						
1) 総合体育館、緑地運動場																						
2) 幸田町としての目指すべき姿																						
(8) 報告書とりまとめ																						
1) 報告書(案)の執筆																						
2) 報告書の修正・確定																						
委員会																						
第1回																						
第2回																						
第3回																						

出所：一般財団法人地方自治研究機構 作成

### 3 調査研究体制

本調査研究は、幸田町及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、調査研究委員会の指導・助言の下、基礎調査機関として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力を得て実施した。

図表 序-3-1 調査研究の実施体制



出所：一般財団法人地方自治研究機構 作成

なお、以下の日程で委員会を開催した。

#### 【第1回委員会】

日時：令和6年7月9日（火）13:30～15:00

場所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

内容：調査研究の背景説明及び調査研究企画書(案)の審議

#### 【第2回委員会】

日時：令和6年11月15日（金）10:00～11:30

場所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

内容：調査研究結果報告及び報告内容に関する審議

#### 【第3回委員会】

日時：令和7年2月4日（火）15:30～17:00

場所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

内容：調査研究報告書(案)の審議

## 第 1 章 幸田町の現状



## 第1章 幸田町の現状

### 1 幸田町の概要

#### (1) 位置と気候風土

幸田町は、愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市である名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲都市などと接している。東西10.25km、南北10.55kmで、面積は56.72km<sup>2</sup>である。

町の中央部を、南東から北西にかけ東海道新幹線が通過しており、南北に東海道本線と国道248号がそれぞれ縦貫し、蒲郡の臨海工業地帯と岡崎・豊田の内陸工業地帯を結ぶ交通の要衝となっている。JR幸田駅を中心に市街地を形成しJR相見駅（平成24年開業）付近では、商業施設や住宅の建設が進んでいる。

東部の遠望峰山の439mを最高に、東部と南西部に100m～400mの丘陵が続き、広田川を中心に平野が広がっており、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町である。

図表 1-1-1 幸田町の位置



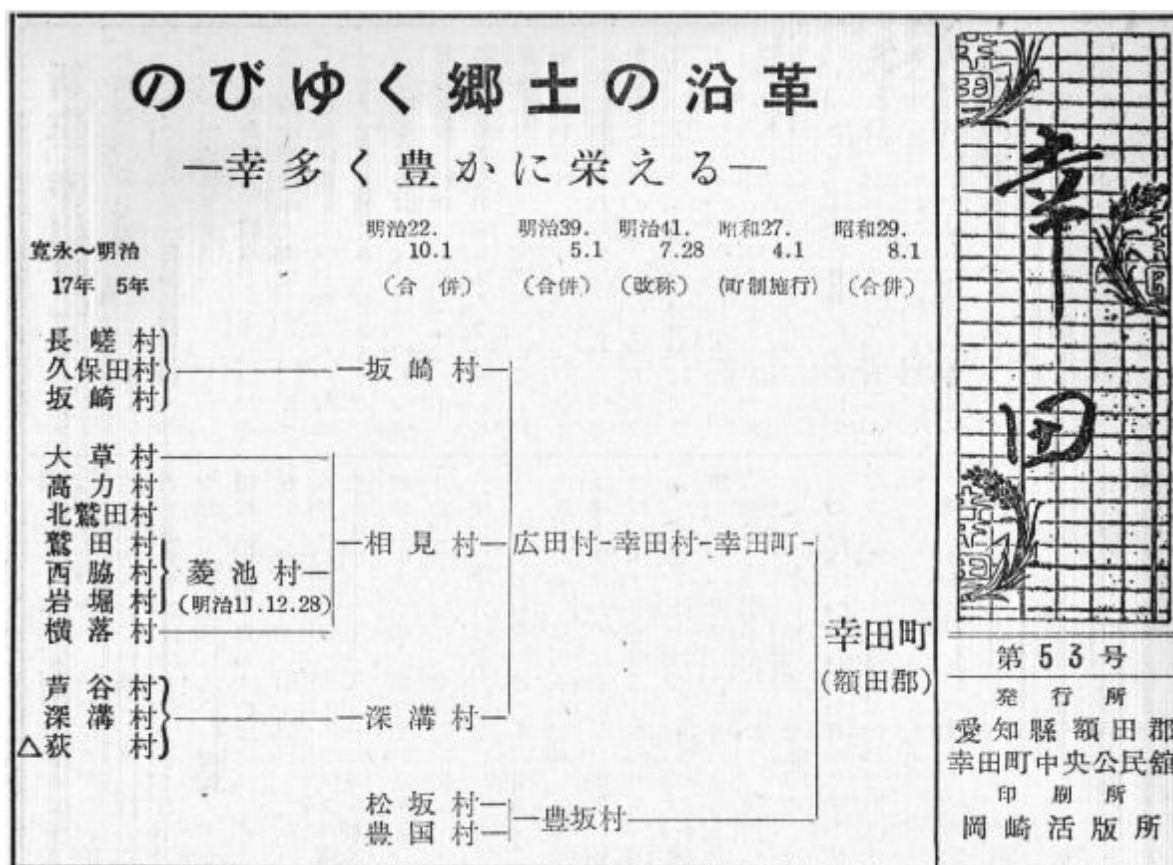
出所：幸田町ホームページ



(2) 沿革

明治 39(1906)年 5月 1日に額田郡坂崎村、相見村、深溝村が合併し、額田郡広田(こうだ)村が誕生した。その後、昭和 27 (1952) 年に町制の施行により幸田 (こうだ) 町が誕生し、昭和 29 (1954) 年に豊坂村と合併、新生幸田 (こうた) 町が誕生した。その後も「人と自然と産業の調和」を目指したまちづくりを進め、平成 8 (1996) 年にはハピネス・ヒル・幸田を構成する施設として幸田町立図書館・幸田町民会館がオープンし、令和 6 (2024) 年 8月 1日には町村合併 70 周年を迎えた。新生幸田町が誕生した昭和 29 (1954) 年の住民基本台帳における人口は 17,490 人であったが、企業誘致及び住宅地整備等を進めてきた中で、平成 28 (2016) 年に 40,000 人に到達し、令和 7 (2025) 年 1月 1日の人口は 42,023 人となった。

図表 1-1-2 幸田町の沿革

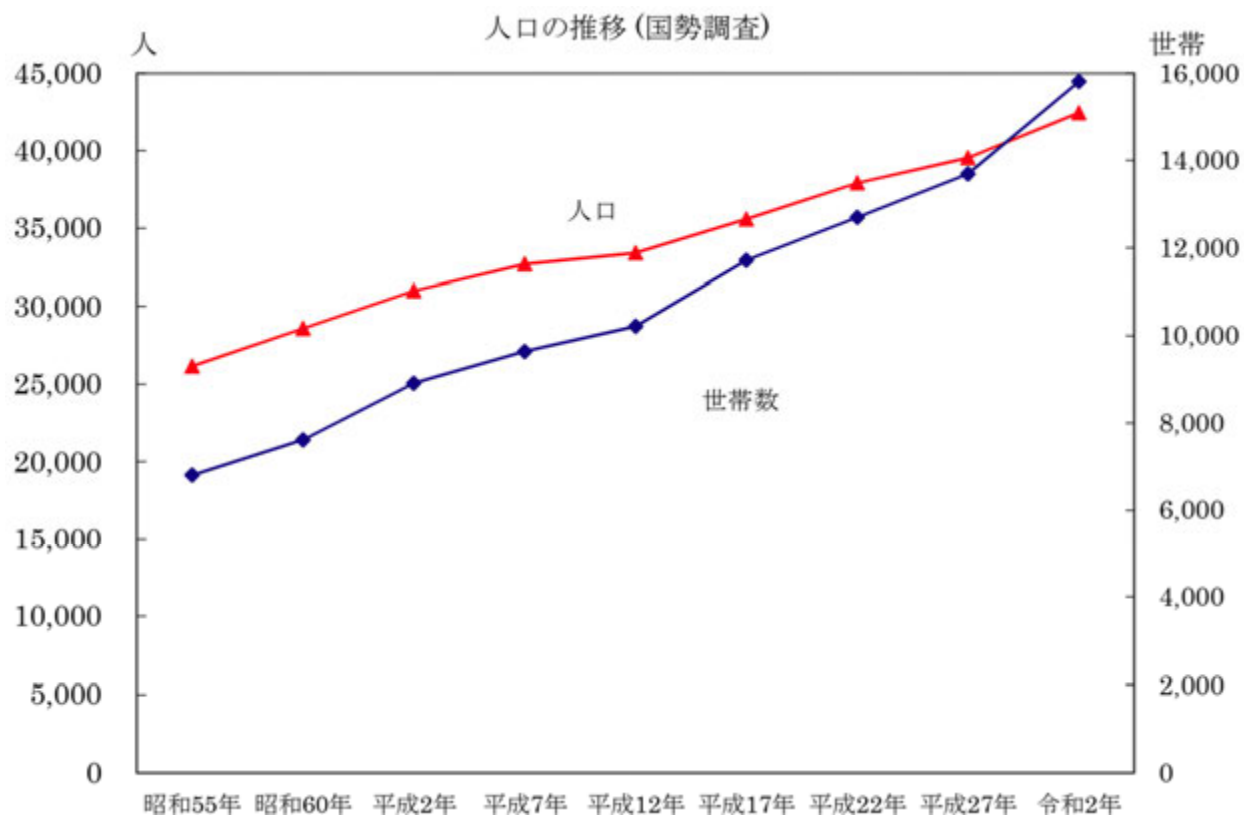


出所：幸田町ホームページ

### (3) 人口

幸田町の総人口は、令和2年時点で増加の傾向にあったが（令和2年10月1日現在42,497人）、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まった令和2年からは減少に転じ、近年は増減を繰り返している。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後、横ばいから緩やかな減少に向かうとされている。

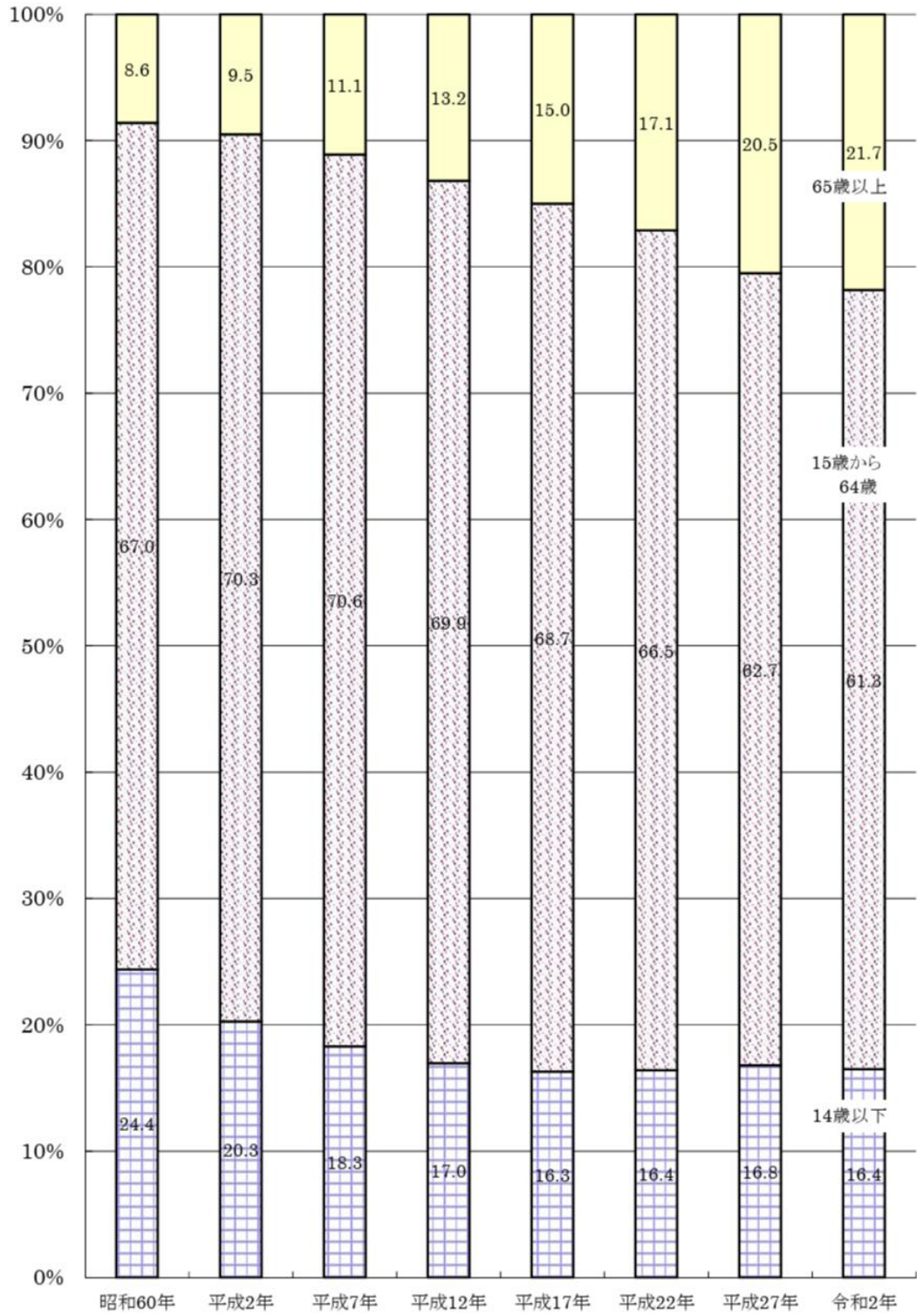
図表 1-1-3 幸田町の人口の推移



出所：こうたの統計 2022年版

図表 1-1-4 幸田町の年齢構成の推移

年齢構成(国勢調査)



データ：27年年齢別人口

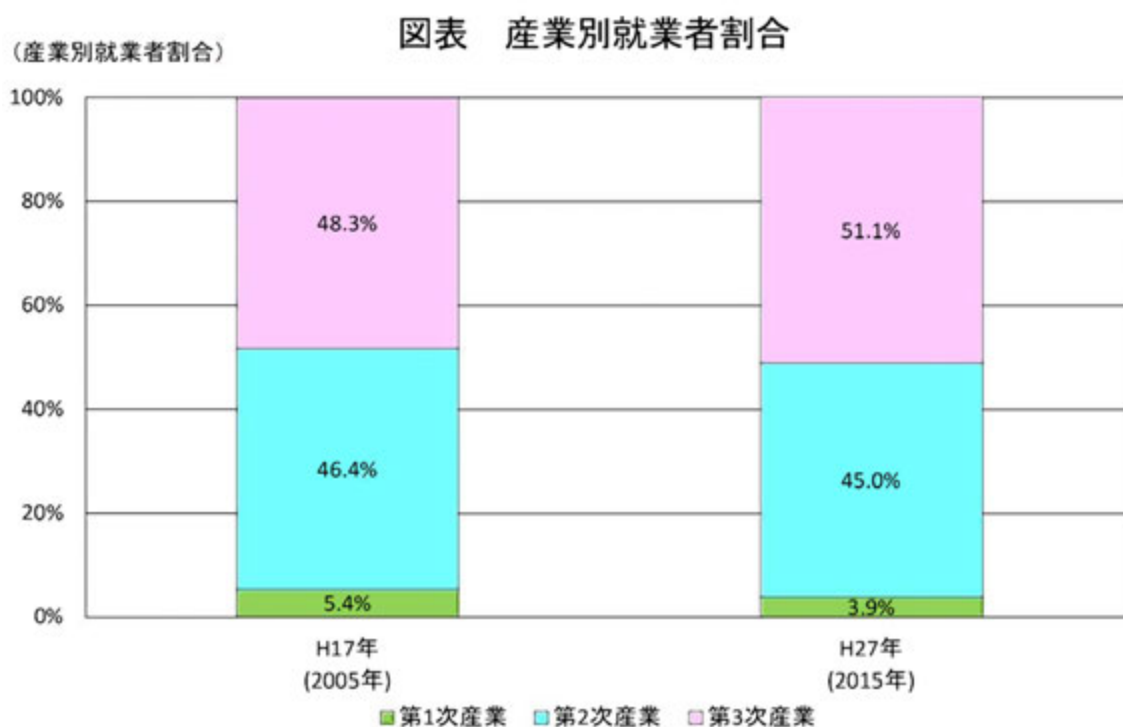
出所：こうたの統計 2022年版

#### (4) 産業

昭和 34 年（1959 年）から昭和 45 年（1970 年）までの期間で工場誘致が図られ、昭和 43 年（1968 年）に駅西工業団地が整備され、昭和 44 年（1969 年）に企業 4 社が操業した。その後、昭和 47 年（1972 年）に坂崎地区の工業団地も整備され、ソニー幸田（現・ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ幸田サイト）など企業 3 社が操業を開始し、昭和 55 年（1980 年）には西尾地区工業団地が整備され日本電装（デンソー）西尾製作所が立地した。昭和 61 年（1986 年）には中部工業団地が整備され、昭和 62 年（1987 年）に日本電装（デンソー）幸田製作所が立地、平成 3 年（1991 年）には長嶺工業団地が整備されるなど、工業製品を基盤とした発展を遂げてきた。

平成 27 年（2015 年）における幸田町の産業別就業者割合は、第 1 次産業が 3.9%、第 2 次産業が 45.0%、第 3 次産業が 51.1%となっている。なお、同年の国勢調査における全国の産業別就業者割合は、第 1 次産業が 4.0%、第 2 次産業が 25.0%、第 3 次産業が 71.0%であり、幸田町の第 2 次産業の就業者割合は全国と比較して 20pt 高くなっている。愛知県全市町村における産業別就業者割合と比較しても、第 2 次産業の割合が幸田町（45.0%）と同等以上の市は、碧南市、刈谷市、豊田市、西尾市、知立市、高浜市など、工業系に強みを有する都市となっている。

図表 1-1-5 幸田町の産業別就業者割合

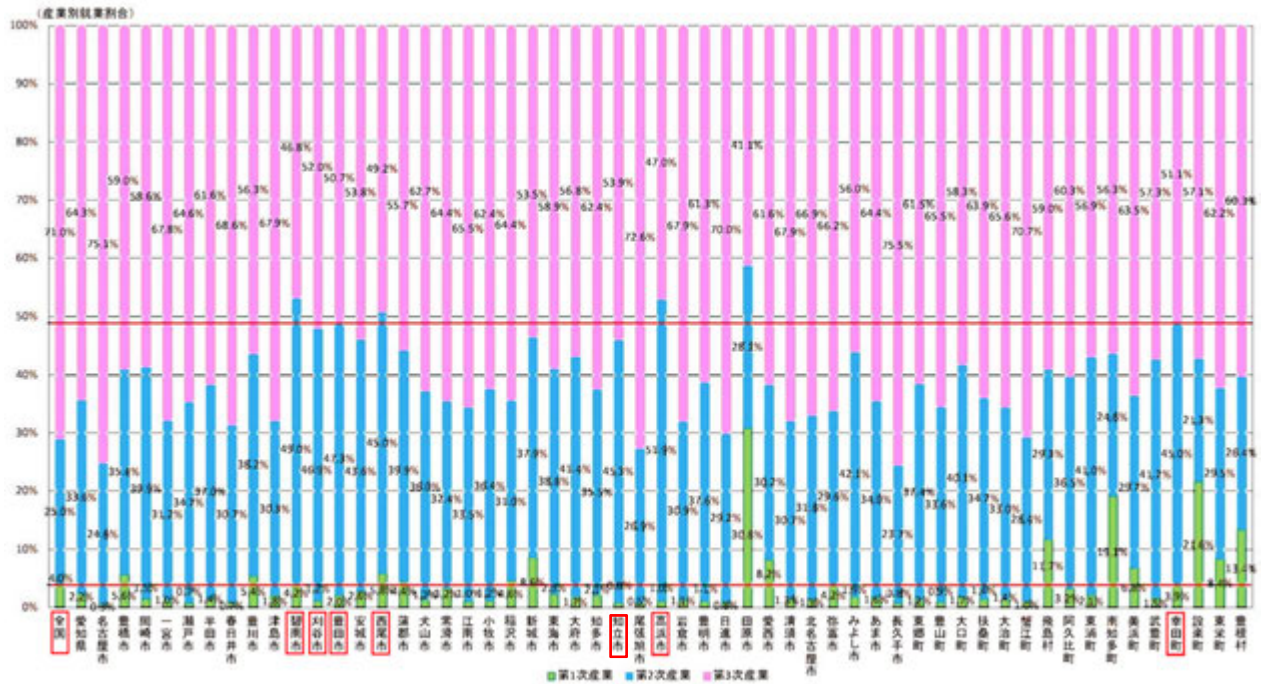


注：分類不能を除く

出典：総務省「国勢調査」

出所：第 2 期 幸田町まち・ひと・しごと創生「総合戦略」

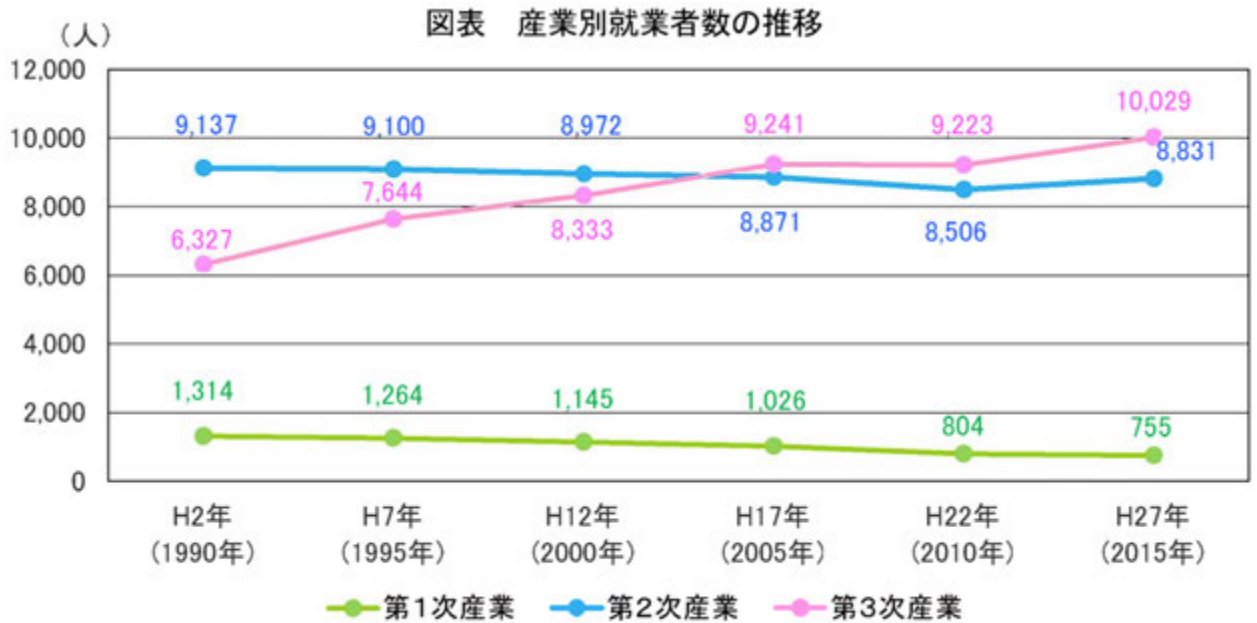
図表 1-1-6 全国、愛知県全市町村の産業別就業者割合



出所：第2期 幸田町まち・ひと・しごと創生「総合戦略」

幸田町の産業別就業者数の推移をみると、第2次産業従事者に対するサービス需要等の高まりにより、平成12年（2000年）から平成17年（2005年）にかけて第3次就業者数が第2次産業従業者数を上回り、現在に至っている。

図表 1-1-7 幸田町の産業別就業者数の推移



出所：第2期 幸田町まち・ひと・しごと創生「総合戦略」

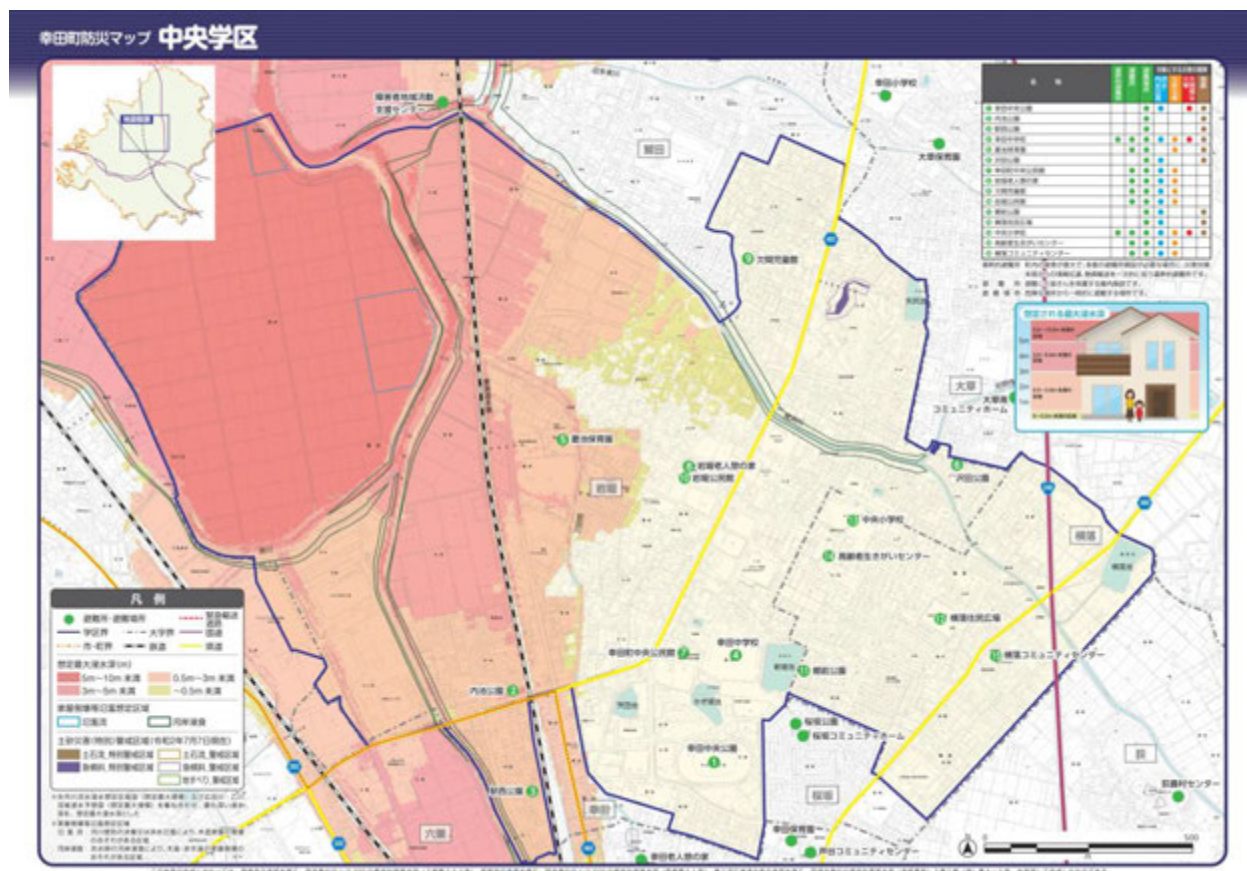


(5) 防災

広田川流域は、著しい市街化の進展により、河川への流出量が増大し、水害の危険性が高まっている。近年では、平成12年東海豪雨と平成20年8月末豪雨の2度において、広田川の菱池遊水地計画位置付近で破堤氾濫し、浸水被害が起きている。このため、広田川では、河道改修と菱池遊水地により、年超過確率1/10に対応した整備を進めている。

また、町南東部に隣接する蒲郡市と災害時相互応援協定を結び、災害時の避難場所提供等を相互に行うなど、近隣市町村との連携を進めている。

図表 1-1-8 幸田町中央学区ハザードマップ



出所：幸田町ホームページ「風水害ハザードマップ」

## 2 幸田町のスポーツ施設と文化施設

幸田町では、平成 28 年度から 10 年間の幸田町が目指すべき将来像等を定めた第 6 次幸田町総合計画において、「きたえよう！こころとからだ」と掲げ、町を挙げてスポーツや生涯学習に取り組み、住民が健康で文化的な暮らしを送ることを推進することとしている。

スポーツ施設では、現在、幸田町内に、6 つの運動場、3 つのテニス場に加え、グラウンド・ゴルフ場、体育館、弓道場、プールが各 1 つ、計 13 の公営施設を有しているが、「施設数が少なく、予約がとりづらい」、「体育館が狭く、観客席もないため、スポーツ大会が開催できない」などの課題を有している。また、文化施設では、その代表的な施設である「幸田町郷土資料館」が昭和 52 年の開館から 47 年経過しており、「施設の狭隘化、老朽化」、「資料の十分な保存環境並びに望ましい展示環境の確保が困難」などの課題に直面している。

これらの課題を背景として、スポーツ施設では「菱池遊水地上の緑地運動場」と「総合体育館」の新設、文化施設では「(仮称)幸田町郷土博物館」の新設の検討が進められてきた。

ここでは、そのうち、幸田町のスポーツ施設に関する現状を整理する。

(文化施設に関する現状は、巻末の参考資料を参照)

図表 1-2-1 第 6 次幸田町総合計画の体系図



出所：幸田町ホームページ

## (1) スポーツ施設の概要

幸田町には、屋外の運動場が6つあり、軟式野球・ソフトボール・サッカー等の屋外スポーツ競技の場として利用されている。テニスコートは3つ存在するが、うち2つは砂入り人工芝（計4面）、1つはクレートコート（計2面）である。

グラウンド・ゴルフ場は、延面積が31,800㎡、ホールが常設80ホール（5面）と、全国でも有数の規模を有しており、幸田町民のみならず、近隣の市町村からも多くの愛好者が足を運ぶ人気の施設となっている。

プールは、「ハピネス・ヒル・幸田」という複合施設内に、町立図書館、町民会館などと併設されている。25mプール、キッズプールなどの屋内施設に加え、ウォータースライダーやビーチプールなどの屋外施設も充実しており、幅広い世代の利用者で賑わっている。

一方、体育館は、「勤労者体育センター」のみであるが、延面積が720㎡と狭く、観客席もないなど、町の唯一の体育館としては物足りない状況となっている。その他、幸田町では、弓道場も有している。

図表 1-2-2 幸田町のスポーツ施設（写真）



とぼね運動場



豊坂テニスコート



大日蔭グラウンド・ゴルフ場



町民プール



勤労者体育センター



弓道場

出所：幸田町ホームページ



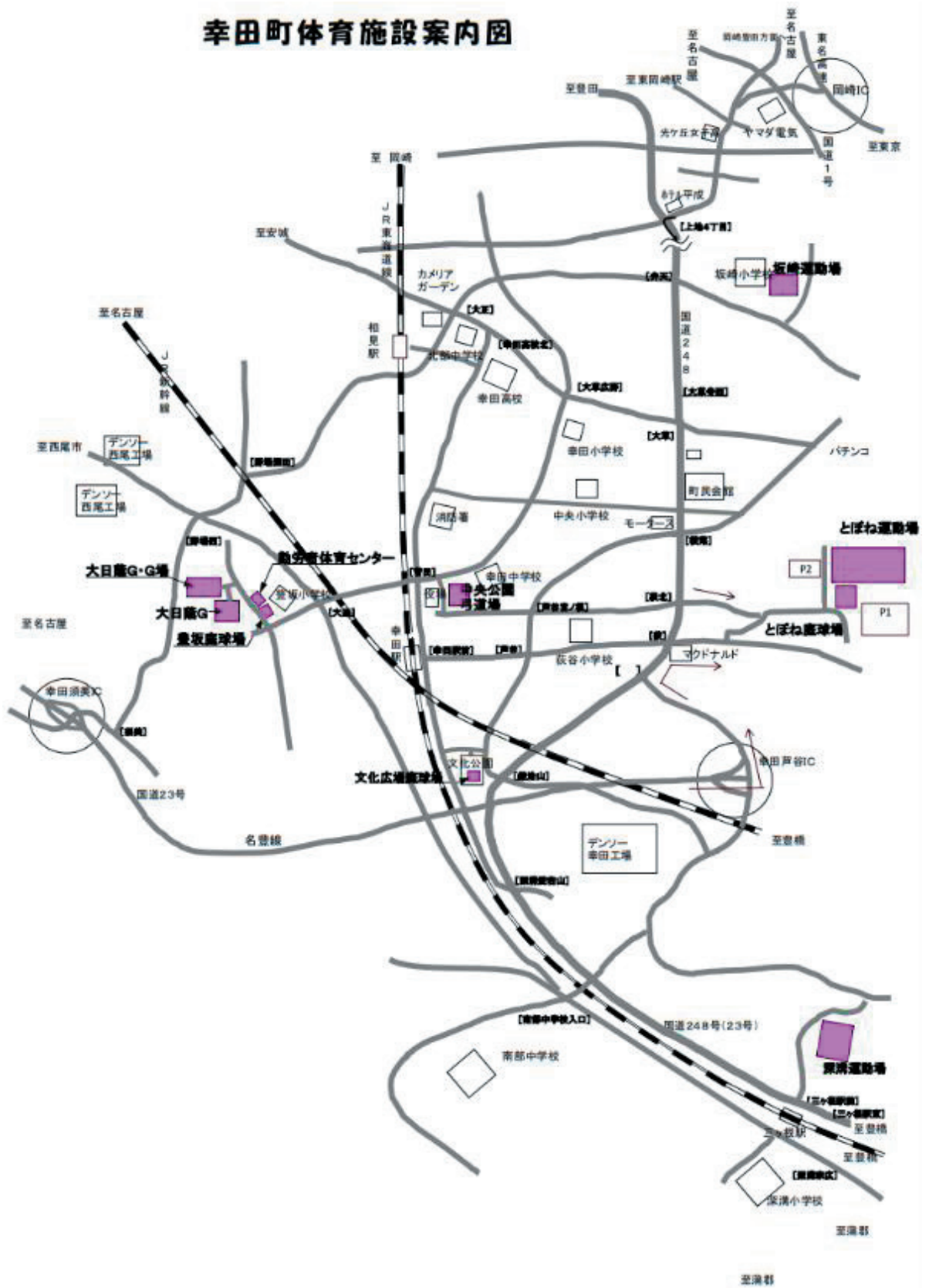
図表 1-2-3 幸田町のスポーツ施設（一覧）

No.	施設種別	施設	所在地	競技種目/諸室構成	営業時間※	利用料金	平米数	竣工年	管理運営方法
1	運動場	坂崎運動場	幸田町大字坂崎字天神山23-1	軟式野球(A面) ソフトボール(B面) サッカー可	6:00～21:00 (18:00よりナイター)	3時間 1,000円 18:00～6,000円(ナイター)	延面積18,642m <sup>2</sup>	1973年度	直営
2	運動場	とばね運動場	幸田町大字荻字奥入61-1	軟式野球(A面) ソフトボール(B面)	6:00～21:00 (18:00よりナイター)	3時間 1,000円 18:00～8,000円(A面・ナイター) 18:00～7,000円(B面・ナイター)	延面積28,277m <sup>2</sup>	1986年度	直営
3	運動場	大日蔭運動場	幸田町大字野場字大日蔭33	ソフトボール(1面) サッカー可	6:00～18:00	3時間 1,000円	延面積12,000m <sup>2</sup>	2002年度 開業	直営
4	運動場	深溝運動場	幸田町大字深溝字大池8	ソフトボール(2面)	6:00～18:00	3時間 1,000円	延面積13,446m <sup>2</sup>	2007年度	直営
5	運動場	坂崎遊水地	幸田町大字坂崎字馬頭80	サッカー1面 グラウンド・ゴルフ可	6:00～18:00	無料	延面積18,000m <sup>2</sup>	1994年度	直営(馬施設を借受)
6	運動場	中央公園グラウンド	幸田町荻池元林1-7	多目的グラウンド (2面・野球・ゴルフ禁止)	6:00～18:00	3時間 1,000円	6.2ha(62,000m <sup>2</sup> ) ※中央公園全体	2004年度	直営
7	テニス場	文化広場テニス場	幸田町大字芦谷字蒲野25-1	テニス(砂入人工芝2面)	6:00～21:00 (18:00よりナイター)	2時間 400円 18:00～21:00 1,600円	延面積1,732m <sup>2</sup>	1982年度	直営
8	テニス場	豊坂テニス場	幸田町大字野場字井戸田57-1	テニス(砂入人工芝2面)	6:00～21:00 (18:00よりナイター)	2時間 400円 18:00～21:00 1,600円	延面積1,675m <sup>2</sup>	1982年度	直営
9	テニス場	とばねテニス場	幸田町大字荻字奥入61-1	テニス(クレートコート2面)	6:00～18:00	2時間 400円	延面積,032m <sup>2</sup>	1986年度	直営
10	グラウンド・ゴルフ場	大日蔭グラウンド・ゴルフ場	幸田町大字野場字大日蔭33	グラウンド・ゴルフ (ホール常設80ホール(5面))	6:00～18:00	3時間 1,300円	延面積11,800m <sup>2</sup>	2001年度	直営
11	体育館	幸田町労働者体育センター	幸田町大字野場字鷺島50-1	バレーボール2面 バスケットボール1面 バドミントン3面	9:00～22:00 毎週月曜日休館	【半面】 9:00～12:00 700円 13:00～15:00 500円 15:00～17:00 500円 17:00～19:00 1,000円 19:00～22:00 1,500円 【全面】 9:00～12:00 700円 13:00～15:00 500円 15:00～17:00 500円 17:00～19:00 1,000円 19:00～22:00 1,500円 3時間 専用1,500円/個人200円(大人) 150円(小人) 18:00～21:00 専用2,500円/個人3,000円 (大人)200円(小人)	延面積720m <sup>2</sup>	1981年 4月1日 開業	直営
12	弓道場	弓道場	幸田町大字荻池字黒方46-10	弓道(6人立ち) 和弓近的(距離8m)	9:00～21:00 毎週月曜日休館	3時間 専用1,500円/個人200円(大人) 150円(小人) 18:00～21:00 専用2,500円/個人3,000円 (大人)200円(小人)	延床面積423.68m <sup>2</sup>	2005年度	直営
13	プール	町民プール	幸田町大字大草字丸山89	屋内プール ・25mプール ・キッズプール ・リラクゼーションプール 屋外プール ・ウォーター 슬라이ダー ・くし草スライダー ・ビーチプール ・キッズプール 施設内にトレーニング室あり	営業時間は最大1,000 ～21:00で時期・曜日に より異なる 毎週月曜日休館 屋外プールは夏季の み	大人500円(団体400円) 小学生4年～中学生3年生300円(団体200円) 幼児～小学生3年生200円(団体100円) 高齢者200円(団体100円) 障がい者等大人200円(団体100円) 障がい者等小人100円(団体50円)	建築面積2,806.90m <sup>2</sup> 延床面積3,328.29m <sup>2</sup>	1998年 7月2日 開業	2006年4月より 幸田町文化振 興協会が管 理・運営

出所：一般財団法人地方自治研究機構 作成

図表 1-2-4 幸田町のスポーツ施設（マップ）

### 幸田町体育施設案内図



出所：幸田町ホームページ

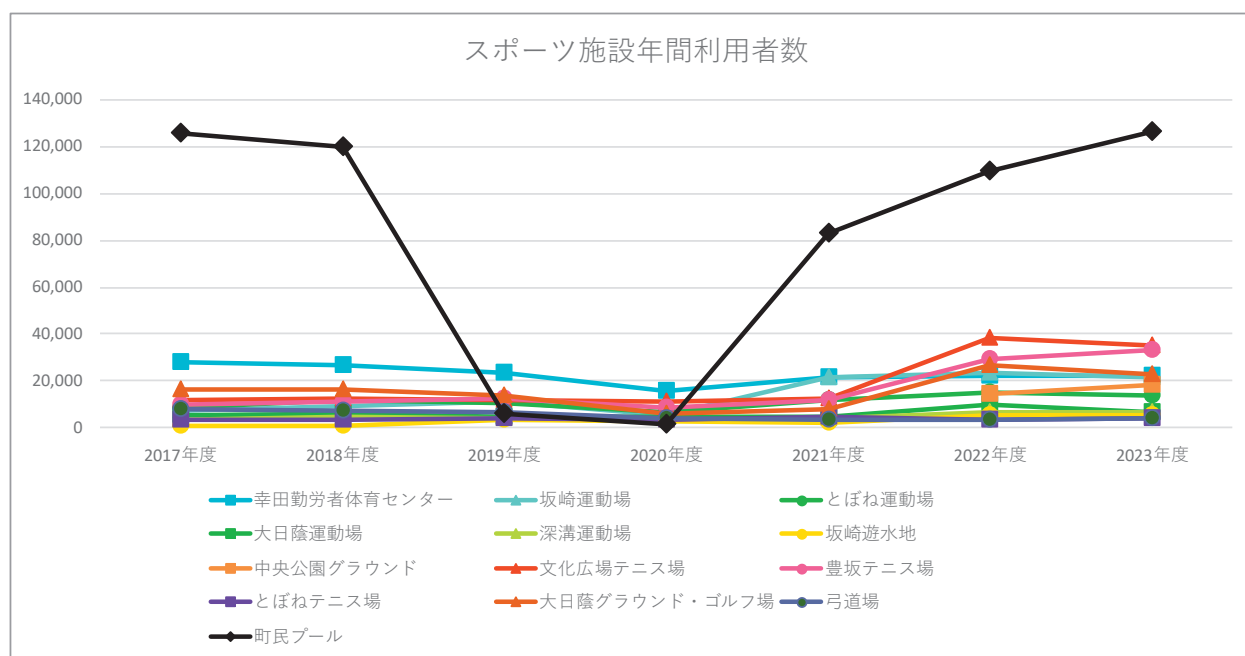
## (2) スポーツ施設の年間利用者数の推移（過去5年間）

幸田町のスポーツ施設の年間利用者数は、新型コロナウイルスの感染拡大により大きく減少したものの、その後は回復傾向にある。特に、町民プールは、2020年度の4,131人（延べ人数）から、2023年度は135,499人（延べ人数）に増加し、2023年度の年間利用者数は同時期の幸田町の人口42,284人（2024年3月時点）の3倍を上回る人数となった。

この理由としては、町民プールが2019年度から2020年度にかけて、改修工事によるプールの利用停止期間があったことにより、大幅に利用者数が減少したことに由来する。2021年度から利用が再開され、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、再開年度は、例年の7割程の利用となったが、直近の2023年度には、例年並みに回復した。町民プールは、近隣市を始め、町外利用者が多数を占めていることから、町人口を大幅に超える年間利用者数となっていることが予想される。

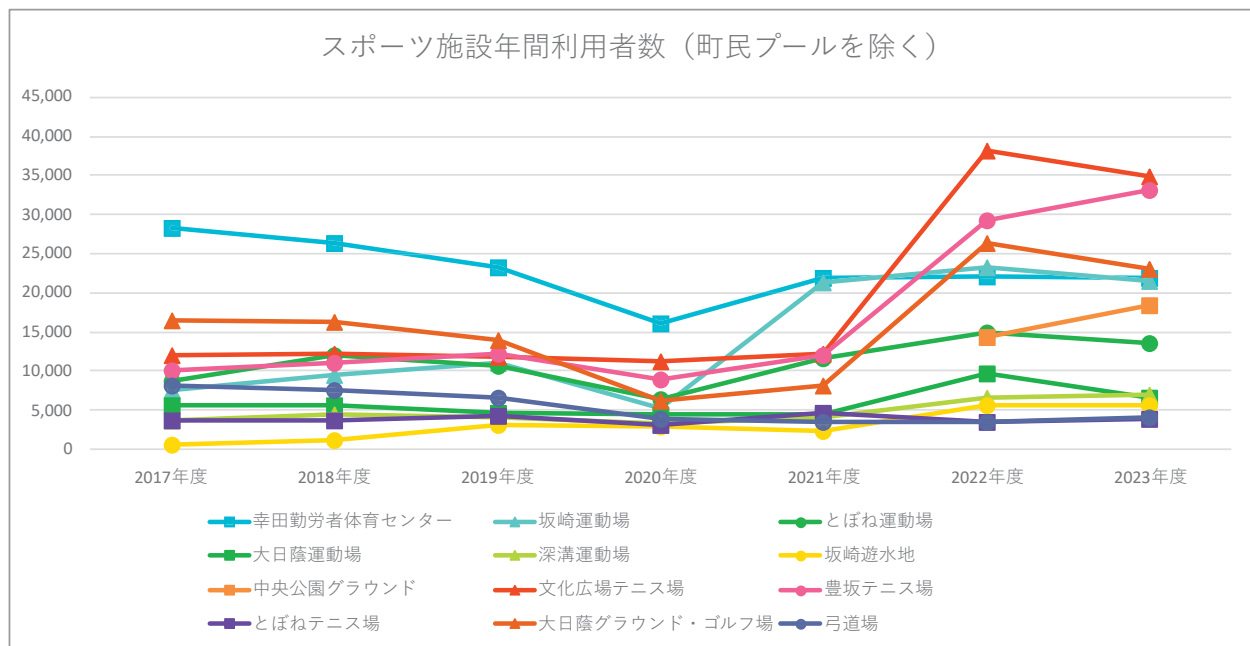
2021年度以降、各施設の利用者数は回復しているものの、町民プールが右肩上がりであるのに対して、町民プール以外の施設（運動場・テニスコート・勤労者体育センター等）は2022年度から2023年度にかけて頭打ちの傾向がみられる。（図表1-2-6）これらの施設については、コロナ後の旺盛なスポーツの需要を満たすだけの施設数が存在していない可能性が示唆されている。

図表 1-2-5 スポーツ施設の年間利用者数



出所：幸田町が提供したデータをもとに一般財団法人地方自治研究機構が作成

図表 1-2-6 スポーツ施設の年間利用者数（町民プールを除く）



出所：幸田町が提供したデータをもとに一般財団法人地方自治研究機構が作成

### (3) スポーツ施設予約時の抽選状況（過去2年間）

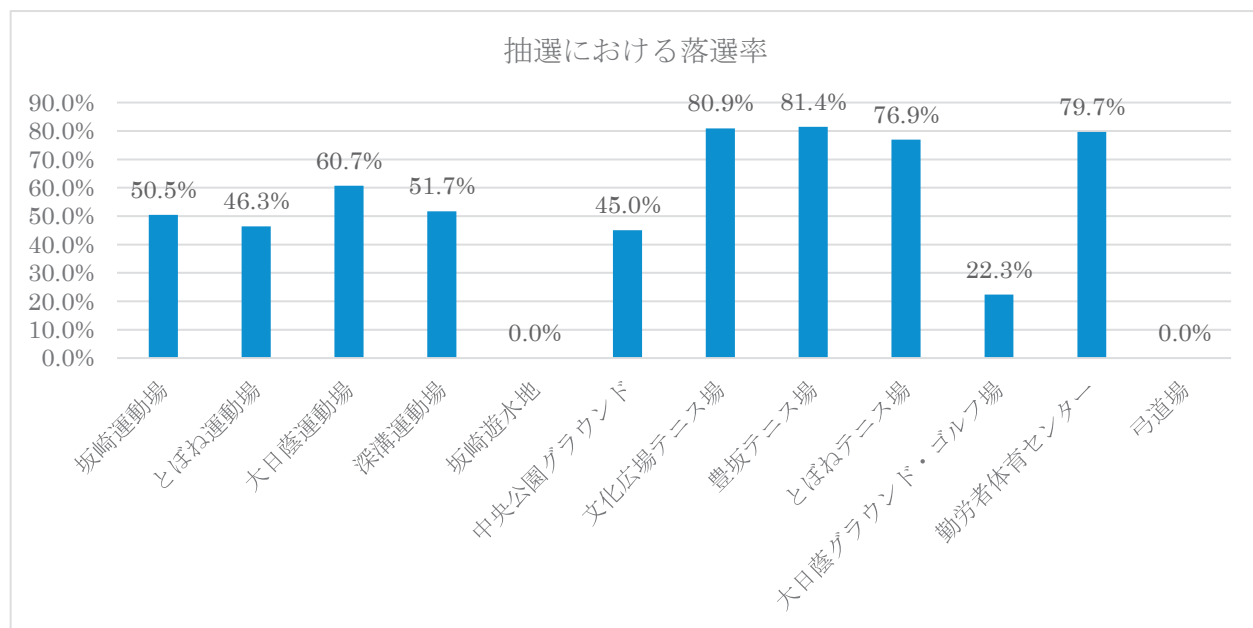
幸田町のスポーツ施設予約時の抽選状況を調査した。

幸田町では、同日の同時時間帯に同一施設の利用申込が複数あった場合は、抽選で利用者を決定することとしているが、2022～2023年度の抽選状況をまとめたものが以下の図表である。

図表 1-2-7 各スポーツ施設の抽選状況

施設名	申込件数	当選件数	落選件数	落選率	(参考)競技種目
坂崎運動場	959	475	484	50.5%	軟式野球(A面)、ソフトボール(B面)、サッカー可
とぼね運動場	602	323	279	46.3%	軟式野球(A面)、ソフトボール(B面)
大日蔭運動場	1,058	416	642	60.7%	ソフトボール(1面)、サッカー可
深溝運動場	592	286	306	51.7%	ソフトボール(2面)
坂崎遊水地	0	0	0	0.0%	サッカー1面、グラウンド・ゴルフ可
中央公園グラウンド	624	343	281	45.0%	多目的グラウンド(2面/野球・ゴルフ禁止)
文化広場テニスコート	18,510	3,540	14,970	80.9%	テニス(砂入人工芝2面)
豊坂テニスコート	15,704	2,921	12,783	81.4%	テニス(砂入人工芝2面)
とぼねテニスコート	6,352	1,468	4,884	76.9%	テニス(クレーコート2面)
大日蔭グラウンド・ゴルフ場	112	87	25	22.3%	グラウンド・ゴルフ(ホール常設80ホール(5面))
勤労者体育センター	15,866	3,221	12,645	79.7%	バレーボール2面、バスケットボール1面、バドミントン3面
弓道場	0	0	0	0.0%	弓道(6人立ち)、和弓近的(距離28m)
計	60,379	13,080	47,299	78.3%	

図表 1-2-8 各スポーツ施設の抽選時の落選率



出所：幸田町が提供したデータをもとに一般財団法人地方自治研究機構が作成

図表1-2-7のとおり、例えば、勤労者体育センターの場合、利用申込が15,866件であるのに対し、当選は3,221件、落選は12,645件と、申込者の79.7%が落選となっている。この落選率は、テニスコートも全て80%前後であり、運動場も50%前後となっている。グラウンド・ゴルフ場は、前述のとおり、全国でも有数の規模を有した大型施設であることから、落選率は

22.3%と相対的に低く、また、坂崎遊水池と弓道場は、現在のところ、抽選を必要としない申込状況となっている。

多くのスポーツ施設の利用申込が抽選に至っているということは、すなわち「申込者(ニーズ) > 利用可能人数(スポーツ施設のキャパシティ)」という状態が生じているということであり、利用者のニーズに比して、施設数が不足している可能性が高いと考えられる。

また、利用者を抽選で決定している状況下、公共サービスにおける公平性の観点から、特定の利用者に当選(利用)が偏るような事態が生じないように、配慮する必要がある。この偏りを避けるために、例えば、スポーツ施設を「こどもの居場所」としての機能等を有した複合施設とするなど、多くの町民に利用してもらえるような施設を検討していくことが望ましい。

### 3 屋外・屋内既存スポーツ施設に関する他自治体との比較・分析

総合体育館及び屋外スポーツ施設の整備の方向性を検討するにあたり、本項ではスポーツ施設に係る現状分析として、幸田町が所有するスポーツ施設と他自治体が所有するスポーツ施設の整備状況を単純比較し、その結果を分析する。

#### (1) 分析目的及び比較対象

幸田町における総合体育館の整備に向けた検討及び屋外スポーツ施設のあり方の検討の基礎資料とするため、幸田町が所有するスポーツ施設と他自治体が所有するスポーツ施設の整備状況を単純に比較することで、充足度を把握することを目的とする。

比較対象の自治体としては、「愛知県内における同規模人口自治体」、「人口構成が類似した自治体（日進市、みよし市）」及び「周辺代表自治体（田原市）」とする。各自治体の人口等の基礎データは図表1-3-1の通りである。

図表 1-3-1 各自治体の基礎データ

自治体名	人口 (人)	構成比			面積 (km <sup>2</sup> )	幸田町=1
		18歳以下	19～64歳	65歳以上		
幸田町	42,449	20.6%	57.7%	21.7%	56.72	1.00
日進市	91,520	20.2%	58.9%	20.9%	34.91	0.62
田原市	59,360	16.4%	54.9%	28.7%	191.12	3.37
みよし市	61,952	19.5%	61.9%	18.6%	32.19	0.57
新城市	44,355	14.5%	49.3%	36.2%	499.23	8.80
高浜市	46,106	19.5%	60.9%	19.6%	13.11	0.23
岩倉市	47,983	15.7%	58.6%	25.7%	10.47	0.18
弥富市	43,025	16.2%	57.4%	26.4%	49.11	0.87
東郷町	43,903	19.6%	56.8%	23.6%	18.03	0.32
東浦町	49,596	17.5%	56.5%	26.1%	31.14	0.55
武豊町	43,535	17.7%	57.1%	25.2%	26.38	0.47

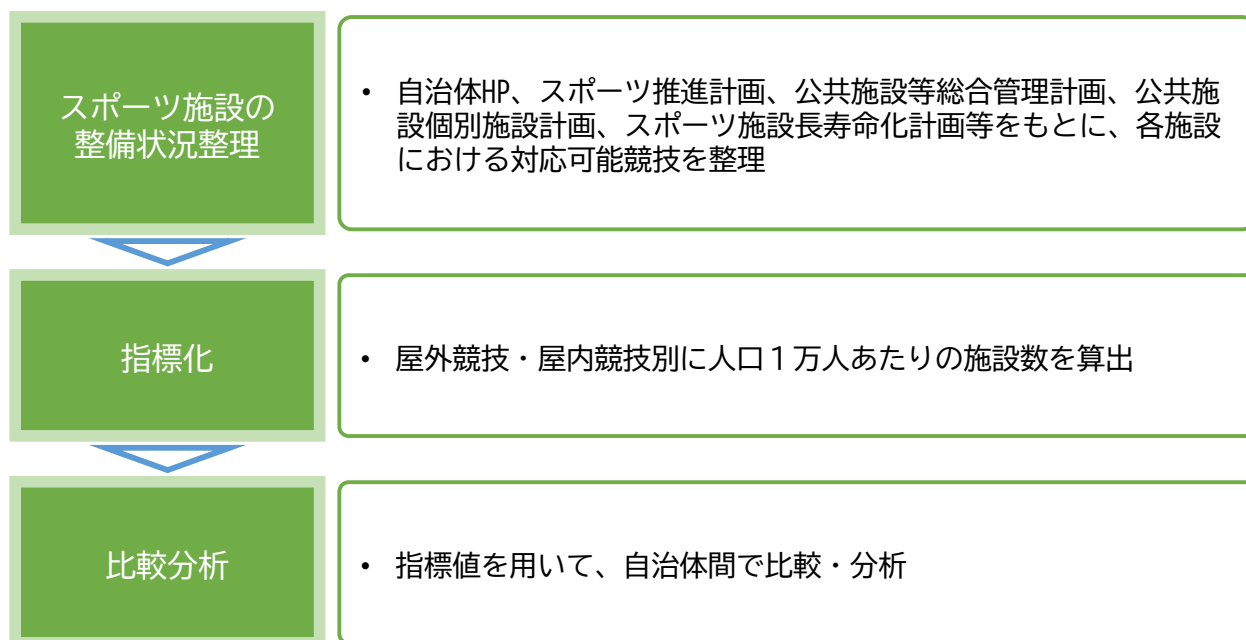
出所：総務省「令和2年国勢調査」

## (2) 分析手法及びフロー

本分析では、図表 1-3-2 に示す通り、対象自治体の各スポーツ施設における対応可能競技を整理した上で、競技別に「人口 1 万人あたりの施設数」を指標化し、自治体間で比較する。分析対象競技は、屋外競技として、硬式野球、軟式野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、グラウンド・ゴルフ及びテニス、屋内競技として、バスケットボール、バレーボール、柔道・剣道及び弓道である。

なお、文部科学省「体育・スポーツ施設に関する調査研究 最終報告書」（2021 年 3 月）において、「施設の充足性」を測る指標として人口 1 千人あたりの施設数が分析に用いられており、これを参考に、本分析においては人口 1 万人あたりの施設数を指標とした。

図表 1-3-2 本分析のフロー



出所：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが作成



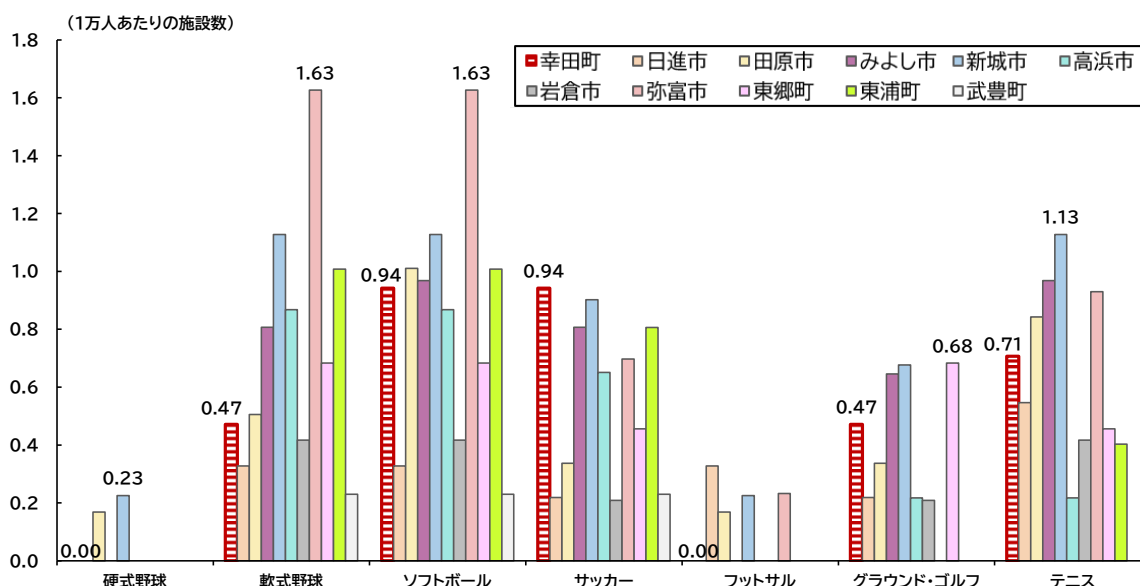
### (3) 分析結果

#### ①屋外競技

屋外競技の分析結果は図表 1-3-3 の通りである。幸田町は、11 自治体中、「サッカー」は 1 位、「グラウンド・ゴルフ」は 4 位、「テニス」は 5 位であり、調査対象自体の中では平均的な施設整備状況といえる。また、各自治体の屋外競技別の指標値（1 万人あたりの施設数）及び順位は図表 1-3-4 の通りである。

「フットサル（一部屋内施設を含む）」については、民間施設が主体であることが多いが、本調査では、公共スポーツ施設（社会体育施設又は社会教育施設に附帯する体育施設）を対象としているため、他競技と比べて、指標値が低くなっている可能性がある。

図表 1-3-3 屋外競技の分析結果



出所：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングが作成

図表 1-3-4 屋外競技の分析結果一覧

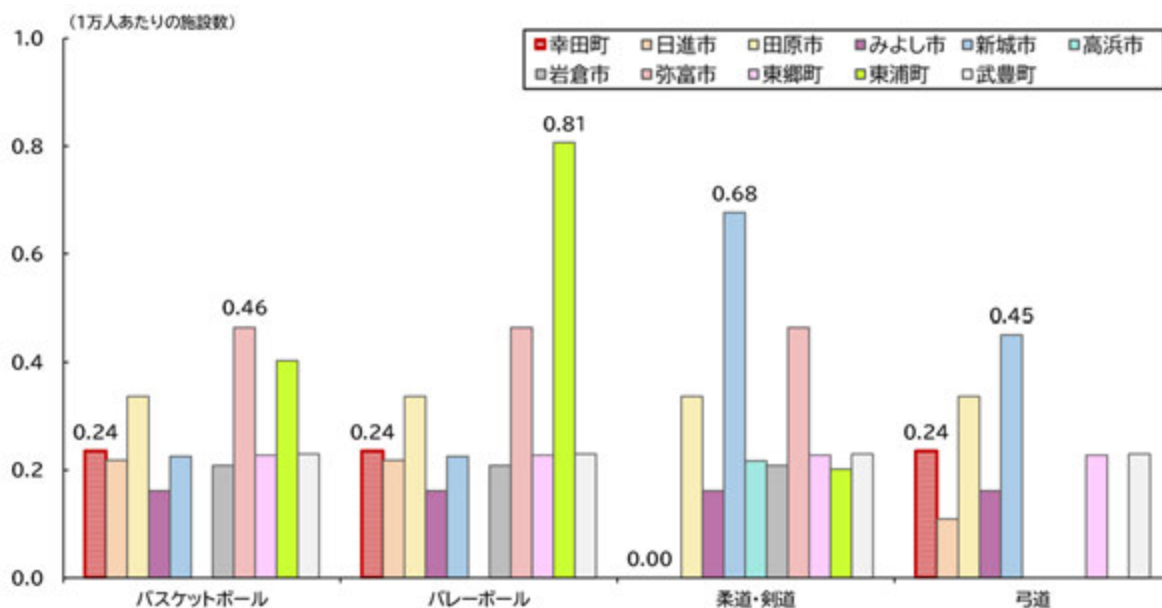
自治体名	硬式野球		軟式野球		ソフトボール		サッカー		フットサル		グラウンド・ゴルフ		テニス	
	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値
幸田町	3	0	8	0.47	6	0.94	1	0.94	5	0	4	0.47	5	0.71
日進市	3	0	10	0.33	10	0.33	10	0.22	1	0.33	6	0.22	6	0.55
田原市	2	0.17	7	0.51	3	1.01	8	0.34	4	0.17	5	0.34	4	0.84
みよし市	3	0	5	0.81	5	0.97	3	0.81	5	0	3	0.65	2	0.97
新城市	1	0.23	2	1.13	2	1.13	2	0.9	3	0.23	2	0.68	1	1.13
高浜市	3	0	4	0.87	7	0.87	6	0.65	5	0	7	0.22	10	0.22
岩倉市	3	0	9	0.42	9	0.42	11	0.21	5	0	8	0.21	8	0.42
弥富市	3	0	1	1.63	1	1.63	5	0.7	2	0.23	9	0	3	0.93
東郷町	3	0	6	0.68	8	0.68	7	0.46	5	0	1	0.68	7	0.46
東浦町	3	0	3	1.01	4	1.01	4	0.81	5	0	9	0	9	0.4
武豊町	3	0	11	0.23	11	0.23	9	0.23	5	0	9	0	11	0

出所：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングが作成

## ②屋内競技

屋内競技の分析結果は図表 1-3-5 の通りである。「バスケットボール」と「バレーボール」では、幸田町は、突出している弥富市と東浦町を除き、他の調査対象自治体と同程度の指標値となっている。また、各自治体の屋内競技別の指標値（1万人あたりの施設数）及び順位は図表 1-3-6 の通りである。

図表 1-3-5 屋内競技の分析結果



出所：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングが作成

図表 1-3-6 屋内競技の分析結果一覧

自治体名	バスケットボール		バレーボール		柔道・剣道		弓道	
	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値
幸田町	4	0.24	4	0.24	10	0	3	0.24
日進市	8	0.22	8	0.22	10	0	7	0.11
田原市	3	0.34	3	0.34	3	0.34	2	0.34
みよし市	10	0.16	10	0.16	9	0.16	6	0.16
新城市	7	0.23	7	0.23	1	0.68	1	0.45
高浜市	11	0.00	11	0	6	0.22	8	0
岩倉市	9	0.21	9	0.21	7	0.21	8	0
弥富市	1	0.46	2	0.46	2	0.46	8	0
東郷町	6	0.23	6	0.23	5	0.23	5	0.23
東浦町	2	0.40	1	0.81	8	0.2	8	0
武豊町	5	0.23	5	0.23	4	0.23	4	0.23

出所：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングが作成



## 第2章 総合体育館整備の方向性検討結果



## 第2章 総合体育館整備の方向性検討結果

### 1 事例調査を基にした幸田町における総合体育館の諸室構成・施設規模の整理

#### (1) 国内他都市における総合体育館の施設概要

愛知県内の周辺自治体の総合体育館及び近年整備された総合体育館の概要を以下に示す。いずれも1,600~1,800㎡程度かつ観客席付きの主競技場（≒バスケットボールコート2~3面相当）があり、一部の施設では副競技場も附帯している。

図表 2-1-1 周辺自治体の総合体育館の概要

自治体	岩倉市	弥富市	東郷町	東浦町	武豊町	日進市	みよし市	
施設名	岩倉市総合体育文化センター	弥富市総合社会体育センター	東郷町総合体育館	東浦町体育館	武豊町総合体育館	日進市スポーツセンター	三好公園総合体育館	
延床面積(㎡)	7,967	6,539	5,498	2,872	6,552	15,791	7,800	
築年数(年)	35	35	34	41	31	28	40	
主競技場面積	面積(㎡)	1,584	1,567	1,566	1,388	1,890	1,868	1,615
	バスケット(面)	2	2	2	2	2	2	2
	バレー(面)	2	3	2	2	3	3	3
	観客席	320席	450席	486席	165席	332席	502席	800席
副競技場有無と面積(㎡)	- (無し)	-	-	-	635 *バレー/バスケット1面 *バドミントン4面	732 *バレー/バスケット1面 *バドミントン3面	-	
運動施設 その他	柔道場	有	有※武道場として	有	有	有※武道場として	有	有
	剣道場	有	有※武道場として	有	有	有※武道場として	有	有
	その他	✓卓球場		✓卓球台常置 ✓弓道場	✓卓球台常置	✓卓球台常置	✓卓球台常置 ✓クライミング壁	✓卓球場
主な諸室 (更衣室・シャワールーム /トイレ除)	✓多目的室 ✓トレーニング室 ✓ランニングコース	-	✓会議室 ✓多目的運動室 ✓スタジオ	-	✓会議室 ✓トレーニング室 ✓視聴覚室	✓会議・多目的室 ✓トレーニング室 ✓ランニングコース ✓こどもの遊び部屋	✓トレーニング室 ✓ランニングコース	

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

図表 2-1-2 近年整備された総合体育館の概要

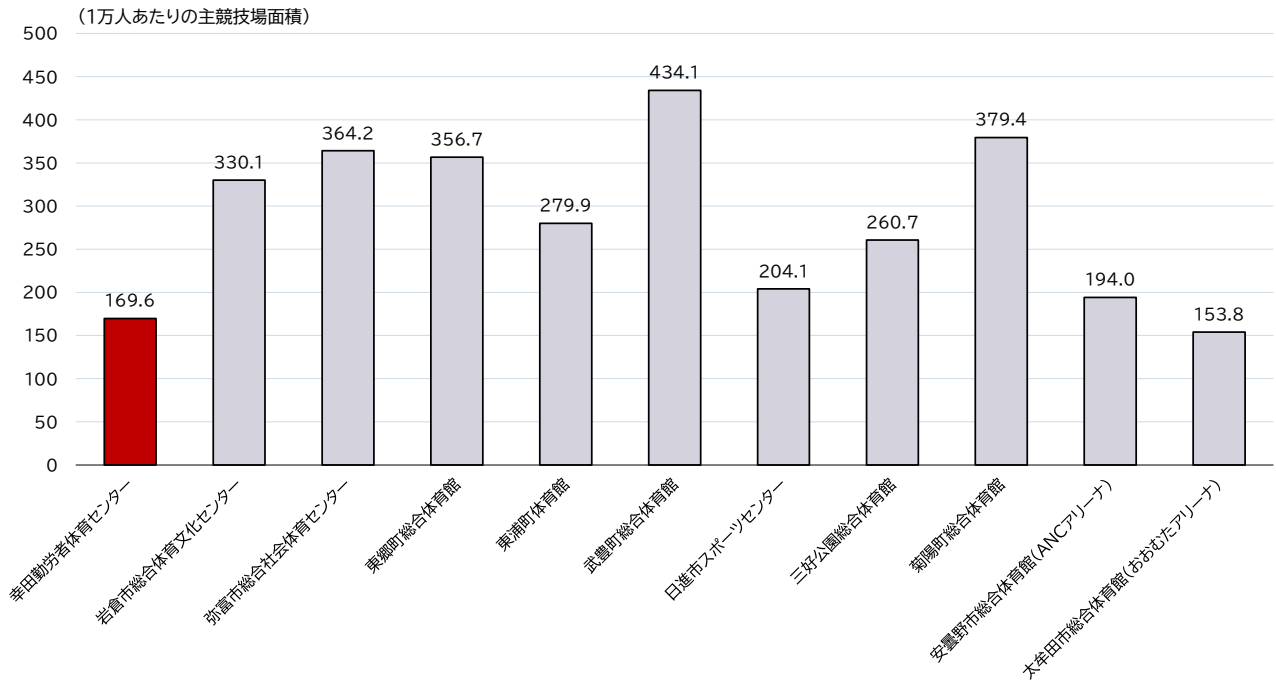
自治体	菊陽町(熊本県)	安曇野市(長野県)	太牟田市(福岡県)	
施設名	菊陽町総合体育館	安曇野市総合体育館(ANCアリーナ)	太牟田市総合体育館(おおむたアリーナ)	
延床面積(㎡)	8,713	7,846 (屋内のみ: 7,304)	10,136	
竣工年	2023	2021	2024	
主競技場面積	面積(㎡)	約1,644 (45.6×36.5)	1,828 (46.3×38.0)	1,712 (47.0×35.6)
	バスケット(面)	2	2 (公式面数)	2 (公式面数)
	バレー(面)	3	2 (公式) ~ 3 (一般)	3 (公式面数)
	観客席	938 (うち車いす席8席)	996 / 多目的観客席8席	1,524 (うち車いす席12席)
副競技場有無と面積(㎡)	約627 (32.2×19.5) *バレー/バスケット1面 *バドミントン3面	687 (19.4×32.1) *バレー/バスケット1面 *バドミントン3面	1,283 (37.5×33.4) *バレー/バスケット2面 (一般) *バドミントン6面 (一般)	
運動施設 その他	柔道場	有 (1面)	有 (※柔剣道場) として	有 (2面)
	剣道場	有 (2面)	柔道2面または剣道2面	有 (2面)
	その他	-	-	副競技場(「多目的アリーナ」)がポッチャ・フットサル・アーチェリー・テニス・卓球等に対応
主な諸室 (更衣室/トイレ除)	✓多目的室 (292㎡) ✓トレーニング室 (約299㎡) ✓スタジオ (約159㎡) ✓大会議室 (約114㎡) / 中会議室 (約39㎡)	✓トレーニング兼多目的利用室 (318㎡) ✓会議室 (2室 / 242㎡) ✓幼児体育室/授乳室/医務室/応接室 ✓防災倉庫 (※指定避難所・支援物資集積場所指定)	✓卓球室 (340㎡) / トレーニング室 (171㎡) ✓会議室 (全9室 / 総計487.92㎡) ✓相談室 (32㎡) / 談話コーナー (98㎡) ✓キッズルーム (60㎡) ✓器具庫 (約1,000㎡) / 防災備蓄庫 (約200㎡)	

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

(2) 各自治体における総合体育館の人口1万人あたりの主競技場面積比較

前頁で整理した各自治体及び幸田町について、人口1万人あたりの主競技場面積を比較した結果は、図表2-1-3のとおりである。幸田町は、勤労者体育センター（主競技場720㎡）を有しているが、11自治体中、2番目に人口1万人あたりの主競技場面積が狭い状況となっている。

図表 2-1-3 人口1万人あたりの主競技場面積の比較



出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

### (3) 幸田町における総合体育館の諸室構成・施設規模

以上の事例調査結果から、今後、幸田町において新たな総合体育館の整備を検討する際に想定される諸室構成と施設規模（諸室面積・延床面積）の目安を下記のとおり示す。

主競技場（メインアリーナ）や副競技場（サブアリーナ）等で構成されるスポーツ施設部分は約3,500㎡から4,000㎡と想定され、ここから大きく外れた規模にすることは現実的ではないが、附帯施設は、更衣室やトイレ、会議室といったスポーツ施設において一般的に必要性が高い諸室のほかに、スポーツ以外の機能（例えば次頁以降で示す他事例のようなもの）をどれだけ導入するかによって規模が大きく異なる。

当然、附帯施設が大きくなればなるほど、施設全体としての規模が大きくなり、それは、必要な敷地条件、イニシャルコスト、ランニングコスト等に少なからず影響を与える要素であるため、今後、基本構想や基本計画を策定する段階では、主に附帯施設への導入機能について、町民等のニーズも汲み取りつつ、町の財政負担もシミュレーションの上、真に必要な機能・規模を検討していくことが重要である。なお、附帯施設として何を導入するかは、施設の立地ともあわせて検討すべき事項であることにも留意が必要である。

図表 2-1-4 想定される諸室構成と施設規模

主に必要と思われる諸室構成イメージ		諸室規模の大まかな目安	
スポーツ施設	主競技場（メインアリーナ） *バスケットボール2面/バレーボール2～3面 程度の確保を目安とする	約3,500 ～ 4,000㎡	1,800㎡程度
	（主競技場）観客席		500～1,000席
	副競技場（サブアリーナ） *バスケットボール1面/バレーボール1面 程度の確保を目安とする		700㎡程度
	柔剣道場・武道場		250～300㎡
	トレーニングルーム		250～300㎡
附帯施設	更衣室（ロッカールーム）	導入する附帯施設機能や諸室数 によって変動	
	トイレ（男女）		
	会議室/多目的ルーム/スタジオ		
	キッズスペース・授乳室等		
	その他必要な附帯施設等（医務室/器具庫・機械室/事務室/応接室/防災倉庫/等）		
+ 施設目的・コンセプト・機能に応じた附帯施設メニューの検討			
延床面積規模（目安）		7,000～9,000㎡程度	

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

なお、一般的には、スポーツ施設の充実化を図る際、新設だけではなく、既存スポーツ施設の改修も選択肢として、検討されることとなる。例えば半田市（愛知県）では、市立成岩中学校の体育館を共有する形で総合型地域スポーツクラブ「ソシオ成岩スポーツクラブ」の活動拠点としている。幸田町においても、既存スポーツ施設の改修も選択肢として、今後、スポーツ施設整備のあり方を検討していく。



## 2 スポーツ施設以外の機能を導入した総合体育館の事例

スポーツ施設以外の機能として、こども向け施設やカフェを導入した堺市（大阪府）の事例、防災機能や文化施設を導入した神栖市（茨城県）の事例、コミュニティ広場（市民の憩いの場）を導入した鳥取市の事例について調査した。

### ◆事例① 堺市立大浜体育館／武道館

大浜公園（市営で最古の公園）内に立地。

園内には野球場、屋外プール、テニスコート、相撲場、猿飼育舎等があり、スポーツ・レクリエーションの総合的な拠点。

市中心部からアクセス良好（堺駅徒歩 10 分）。



（出所）国土地理院地図地理院タイル「全国最新写真（シームレス）」を加工して作成

施設概要		
竣工年	2021年	
敷地/延床面積	18,694㎡/12,972㎡	
体育館部分	大アリーナ	面積 2,194㎡（バスケ2面/バレ-3面） 観客席 1,620席／車いす席24席
	小アリーナ	面積 915㎡（バスケ1面/バレ-1面） 観客席 418席／車いす席4席
	放送室（大会運営室）	
	更衣室・プロ仕様更衣室	
武道館部分	柔道場	面積 520㎡（試合場2面） 観客席 154席／車いす席6席
	剣道場	面積 520㎡（試合場2面） 観客席 154席／車いす席6席
	更衣室	
	その他施設	スポーツ施設 トレーニング室 更衣室 スタジオ スポーツコーナー
	キッズ施設 キッズコーナー・スペース ベビールーム	

日常的なスポーツ拠点（武道館老朽化／体育館環境改善ニーズへの対応）と、プロスポーツチームの観戦の場としての役割を両立。

下記の取り組みにより、体育館の立地する公園全体の魅力向上に寄与。

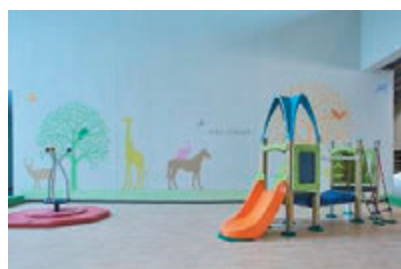
- ・館内のキッズスペースや芝生広場の遊具など、ファミリー層が気軽に立ち寄れるスポットを設置。
- ・民間事業者の自主提案施設として、施設に隣接した場所に、「あそびとスポーツの融合」をテーマにした子ども向け施設（屋外遊び場）やカフェを整備。

《メインアリーナ》



（出所）堺市立大浜体育館/大浜武道館HP

《館内のキッズスペース》



（出所）大和リース株式会社HP

《こどもの遊び場・カフェとの複合》



（出所）ポネルンドプレイヴイル大浜公園HP

## ◆事例② かみす防災アリーナ

神栖中央公園（防災公園）内に位置。

平時には市民のスポーツ・文化の場、災害時には最大1万人が収容可能な大規模避難施設（災害備蓄倉庫／非常用電源等配備）。

主に自家用車等による来訪を想定。



© OpenStreetMap contributors  
 (URL : <https://www.openstreetmap.org/copyright>)

地域の防災拠点と位置づけ、災害時の避難所機能及び屋内に求められる救援・救護スペース等の機能確保を目的に防災機能を持つ多目的施設として整備。

文化施設（音楽ホール）、温水プール・温浴施設との複合。スポーツを通じた市民の健康づくりや、市民の様々な活動の場としての賑わい創出に寄与。

### 《音楽ホールとの複合》



(出所) かみす防災アリーナHP

施設概要				
竣工年	2019年	敷地/延床面積	29,463㎡/20,145㎡	
主な諸室構成	体育館機能	メインアリーナ	面積 観客席	
		サブアリーナ	面積 観客席 -	
		諸室	更衣室/シャワールーム 控室 応接室 多目的ルーム	
	複合機能	音楽ホール	舞台面積 観客席	
		プール	温浴施設	
	その他施設	スポーツ系	トレーニング室 スタジオ	
		複合機能	会議室 コミュニケーションコリドー(滞在空間)	カフェ
			キッズルーム・授乳室	

(出所)かみす防災アリーナ公式HP

### 《各諸室に防災機能を位置づけ》

施設名	防災機能
メインアリーナ 観客席約2500席(固定) サブアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難スペース</li> <li>救援救護スペース</li> </ul>
温水プール、売浴用プール、ジャグジー、温浴施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>プールの水を生活用水に利用</li> <li>避難者の入浴施設</li> </ul>
トレーニング室、スタジオ、多目的ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難スペース</li> <li>救援救護スペース</li> </ul>
音楽ホール 観客席約300席(固定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難者への災害対応などの説明会場</li> <li>避難スペース</li> <li>救援救護スペース</li> </ul>
会議室、研修室、和室、多目的ルーム、キッズルーム、授乳室、カフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者、障害者向け避難スペース</li> <li>災害ボランティア利用など</li> <li>乳幼児などの心身をケアする相談室など</li> <li>避難者への給湯や飲み物などの配布</li> </ul>
エントランスホール、受付、事務室、演習室、会議室、保管倉庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難スペース</li> <li>避難所の運営管理、送迎業務の拠点</li> <li>現地災害対策本部(防災行政無線設備)</li> <li>緊急物資倉庫</li> </ul>
展望デッキ、駐車場(約470台)、駐輪場(自転車約100台、バイク約40台)	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波発生時の一時避難スペース</li> <li>お隣車庫の駐車場</li> <li>屋外救援救護スペース</li> <li>ペットの一時避難スペース</li> </ul>

(出所) かみす防災アリーナHP

### ◆事例③ 鳥取市民体育館

旧鳥取市民体育館（築 50 年）の再整備。

最寄りの JR 鳥取駅から徒歩 20 分であり、利用者の多くは自家用車で来訪。



(出所) 国土地理院地図地理院タイル「全国最新写真 (シームレス)」を加工して作成

施設概要			
竣工年	2023年		
敷地/延床面積	19,689㎡/10,769㎡		
体育館部分	メインアリーナ	面積 2,147㎡ (バスケット2面/バレー3面)	
		観客席 476席/車いす席4席	
	小アリーナ	面積 368㎡ (バスケット1面/バレー1面)	
		観客席 有	
放送室 (大会運営室)			
更衣室・プロ仕様更衣室			
複合機能	フットサル場	33×18㎡/ロングパイル	
	スケートボード場	屋根付き/各種セクション配置	
	コミュニティ広場	人工芝多目的広場	
その他施設	スポーツ	トレーニング室	スタジオ
	その他	会議室	屋外デッキ
		キッズスペース	
	(出所)鳥取市民体育館公式HP		

現代の市民ニーズにこたえる体育館として、市民の日常的なスポーツから各種スポーツ大会・イベントでの利用に対応。

高さ 5m のピロティを 1 階に設けることでアリーナをかさ上げし、浸水被害にも対応できる構造。平時にはフットサル場やスケート場として利用が可能。

誰でも気軽に立ち寄ることができる開放的な憩いの場として人工芝のコミュニティ広場を整備。ラジオ体操や子どもの遊び場、イベントなど多目的に利用が可能。

#### 「メインアリーナ」



(出所) 美津濃株式会社HP

#### 「多目的のスポーツ施設機能との複合」



#### 「コミュニティ広場」の整備



(出所) 美津濃株式会社HP



(出所) 美津濃株式会社HP

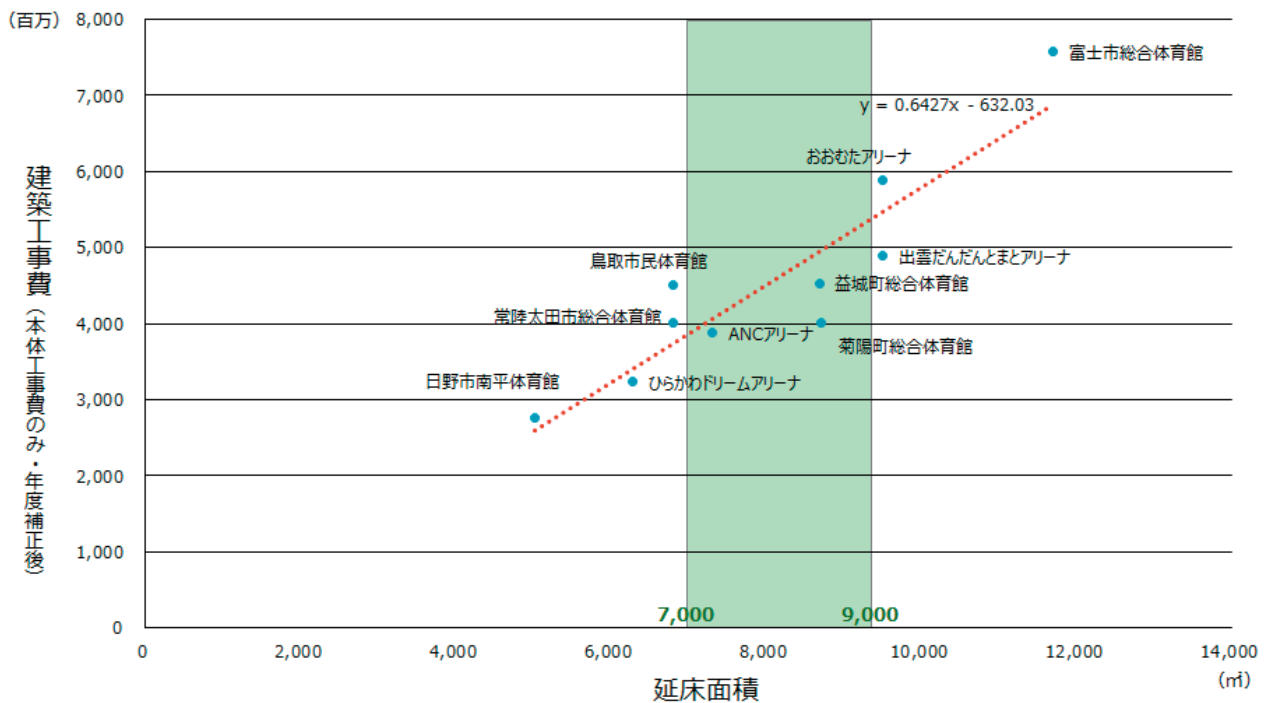
### 3 整備費の類推

#### (1) 国内他都市における総合体育館等の整備費実績等を基にした整備費の類推

国内で近年整備された総合体育館（またはそれに類する屋内体育施設）の整備費実績または基本計画策定時において検討された整備費と、延床面積との関係を、下記に示す。ここでいう整備費は、本体工事費のみであり、竣工年度または検討年度当時から令和6年3月現在の建築コストの水準に補正を掛けた後の値である。

「1 (3) 幸田町における総合体育館の諸室構成・施設規模」で設定した総合体育館の規模（7,000㎡～9,000㎡）をふまえると、新たな総合体育館の整備費（本体工事費のみ）は、およそ、40億弱～50億余程度と想定される。

図表 2-3-1 総合体育館等の整備費と延床面積の関係



出所：三菱UFJ リサーチ&コンサルティングが作成



#### 4 官民連携の動きと民間活力活用手法の概要

##### (1) スポーツ施設整備・運営における官民連携の推進に向けた動き

より効率的・効果的で、魅力あるスポーツ施設の整備・運営の実現のため、国では、スポーツ施設の整備・運営における官民連携の推進に向けた動きが活発化している。

「第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日）においては、今後5年間に取り組む施策の1つとして、スポーツの成長産業化を掲げており、具体的には、以下のとおり、地域スポーツ環境の量的・質的充実を図ることとしている。

図表 2-4-1 スポーツの成長産業化にかかる施策目標

<p><b>【今後の施策目標】</b></p> <p>✓ <b>ストック適正化の下、既存施設の有効活用やオープンスペース等のスポーツ施設以外のスポーツができる場の創出、性別、年齢、能力等にかかわらず誰もがスポーツを行いやすくするユニバーサルデザイン化の推進等により、安全で持続可能な地域スポーツ環境の量的・質的充実を図る。</b></p> <p><b>その結果として、対策の優先順位の考え方等を記載した質の高い個別施設計画の策定率を令和8年度末に11%（令和元年度末）から50%とする。</b></p>
---

出所：第3期スポーツ基本計画

さらに、スポーツ庁は、令和6年度の施策として、「地域の核となりうる新たなスポーツ施設のあり方検討事業」を掲げている。同事業では、地域スポーツ環境の充実に向け、地域スポーツの活動拠点となる施設について全体像の具体化を図る（求められる機能・要素・社会的価値等）とともに、社会的価値を実現するための手法の明確化（官民連携（PFI・PFS/SIB）、複合化・集約化等）がなされることとなっている。

また、内閣府が策定した「PPP／PFI推進アクションプラン（令和6年改定版）」においては、スポーツ施設（スタジアム・アリーナ等）について、公共施設等運営事業の活用に向けた取組を抜本的に強化し、令和8年度までに10件の具体化を目標とすること、また令和13年度までに40件の具体化を狙うことが示されている。

## (2) 総合体育館等への導入が想定される民活手法の概要

総合体育館等の整備・運営について、他事例では下記のような民間活力活用手法が多く導入されており、幸田町でも選択肢として想定される。

今後、事業手法検討の段階で詳細な検討（定性評価や定量評価、サウンディングを含む）を行うこととなるが、現段階ではいずれも選択肢であり、基本構想や基本計画の段階でも事業手法の選択肢を狭めず、その後、幅広い選択肢から事業手法の検討を行うことが肝要である。

図表 2-4-2 民活手法の選択肢とその概要

手法	概要	メリット/留意点等	事例
指定管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業等に施設の管理・運営（一般的に3～5年）を委任するもので、施設の使用許可や利用料金の収受（利用料金制の場合）を指定管理者が行う点が、業務委託と異なる。</li> <li>DB、DBO、PFI等との併用も可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注者側にとっては、従来からの業務委託と発注の手間は大きくは変わらない。</li> <li>受注者側にとっては、利用料金制であれば、一定の集客インセンティブが期待できる。業務内容は従来の業務委託と大きく変わらず、地元企業も含めて取り組みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハッピーネス・ヒル・幸田など全国で多数導入</li> </ul>
DB (設計・施工一括発注)	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計と建設を一括発注するもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計事務所と建設会社が一体で提案・業務遂行することで、一定の費用削減が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大牟田市総合体育館等</li> </ul>
DBO (Design-Build-Operate)	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、建設、維持管理、運営を一括発注する点はPFIと共通するが、その事業のみを遂行するSPC（特別目的会社）を設立しない点、民間資金の活用をしない点が、PFIとは異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論上、PFIと同等の費用削減効果が期待できる。</li> <li>民間資金の活用が無いため、施設整備費等を自治体が起債や一般財源で調達し、竣工時に支払う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武豊町屋内温水プール等</li> </ul>
PFI (Private Finance Initiative)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFI法に基づき、設計、建設、維持管理、運営を一括発注・性能発注・長期契約するもの。</li> <li>民間資金を活用（整備費等をPFI事業者が融資等で一旦立替え、運営期間中に自治体から割賦で対価を得る）することで、金融機関も事業に関与するのが特徴。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理（運営のみ）やDB（設計と施工のみ）と比べて費用削減効果や民間ノウハウの活用が期待できる。</li> <li>金融機関も融資返済の観点でモニタリングすることで、事業の安定性が高まる。</li> <li>経験のない地元企業がコンソーシアムに参画しにくいのが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取市民体育館など、幅広い施設種別について、1,000件を超える事例あり。</li> </ul>

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

## (3) 幸田町単独整備を前提としない官民協働

上記(2)は、あくまで幸田町が単独で総合体育館等を整備する場合の民間活力活用手法を挙げたものであるが、下表に示す通り、官民協働は、町単独整備以外でもあり得る。

図表 2-4-3 町単独整備を前提としない官民協働

	概要	メリット/留意点等
①	整備費の一部を民間が負担（あるいは小規模な施設を複数整備し一部を民間が整備）	<ul style="list-style-type: none"> <li>町か民間のどちらかが大規模な施設を整備・運営するというリスクを軽減できる</li> <li>町の整備と民間の整備で複数の事業の調整が必要となり事業化まで長期間を要する可能性が高い</li> </ul>
②	民設民営で新設し、一定程度、町としての利用を確約	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の要望も施設整備に一定程度、反映可能</li> <li>民間にとっては、町からの利用料収入が見込める</li> <li>利用料支払いの確約について町の説明・合意形成が必要</li> <li>FLAT HACHINOHE（多目的アイスアリーナ）の事例では、八戸市が年間2,500時間分のアイスアリーナ利用枠を借り上げ（利用料は年間1億円相当）</li> </ul>
③	既存の民間企業の体育施設を一部の日時、町民向けに借用	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当企業との交渉のみで良いため、早期に実現可能</li> <li>利用できる日時には制約があり、調整も必要</li> </ul>

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

## 5 その他事業化に向けて検討すべき事項

スポーツ施設の整備は、主たる利用者が住民であり、どのような施設ができるのかという点で非常に大きな関心を集めるものである。そして、合意形成に相応の時間と労力を要する。

整備するスポーツ施設が、スポーツを「する」「みる」「ささえる」環境の充実化という目的のみであれば、施設の利用者等の数や、あるいは当該スポーツ施設を拠点とするスポーツチームの存在など、一定程度の規模の原理が働く（想定稼働率、収益性、自治体の財源、スポンサー企業の存在などが影響する）こととなり、言い換えれば、規模の小さな自治体ではより一層、合意形成が難しくなるということの意味する。

そこで、スポーツ施設の整備により、自治体が抱える別の課題を解決することができないかといった視点も持って検討することが有用である。例えば、北海道ボールパーク F ビレッジは、北海道日本ハムファイターズの新球場が核となっているが、敷地内には農園エリアがあり、栽培された作物が F ビレッジ内の各種料理で提供されるほか、最先端技術を用いた農業学習施設も建設される予定となっており、北海道における農産業振興の役割も果たしていると言える。

なお、どれだけ迅速に事業化を進めても、基本構想や基本計画を策定し、事業手法検討を経て、事業者公募・選定、設計、建設で、10年前後は必要となる。

住民に対して丁寧に説明し、合意形成していくことは当然であるが、その際、スポーツ施設の整備のあり方によって、調整事項、ひいては住民が利用できるようになるまでの時間軸が異なることも、あわせて念頭に置くことが重要である。例えば、新設で総合体育館を整備する場合は、ゼロベースで導入機能や規模を固め、必要な土地を確保し、また財政負担額についても精査していかなければならない。他方で既存施設の改修や複合化などを検討する場合は、対象となる既存施設の利用者や管轄する部署との調整・合意形成に一定程度の時間を要することを覚悟しなければならない。こうした事業化までのプロセス、時間軸も念頭に、今後、基本構想や基本計画において、あり方を検討していくことが重要である。

### 第3章 屋外スポーツ施設整備の方向性検討結果





### 第3章 屋外スポーツ施設整備の方向性検討結果

#### 1 屋外スポーツ施設整備に向けた前提条件の整理

##### (1) 広田川（菱池遊水地）整備事業について

広田川流域は著しく市街化が進展してきており、河川への流出量が増大し水害の危険性が高まっている。近年では、平成12年東海豪雨と平成20年8月末豪雨の2度において、広田川の菱池遊水地計画位置付近で破堤氾濫し、浸水被害が起きている。

本事業は水害の軽減を図るもので、河道改修と菱池遊水地により年超過確率1/10に対応した整備を進めている。現在では町有地を含め26ha余、131人、総額約21億円の用地買収が完了しており、令和8年度の完成に向け、令和3年度から堤防の工事に着手し、工事を鋭意進めているところである。

##### (2) 緑地運動公園の概要

平時での菱池遊水地上部利用として、幸田町では今年度、本調査とは別途、「緑地運動公園」の検討及び基本構想の策定を行っている。

当公園の諸室構成は図表3-1-1の通りで、面積計約77,000～78,000㎡の広さとなることが見込まれている。なお、菱池遊水地は三段構造となっているが、最下部では愛知県が「太陽光発電施設」を検討している。

図表 3-1-1 菱池遊水地の整備内容(概要)

	諸室構成	面積	面数	備考
主 競 技 場	サッカーコート	約 58,000 ㎡	2 面	多目的広場としての利用も可能
	テニスコート	約 3,400 ㎡	5 面	
	バスケットコート		1.5 面	半面は3on3利用
	スケートボード場	約 3,000 ㎡		面積はバスケットコートとの合計
そ の 他	駐車場	約 11,000 ㎡		約 400 台
	トイレ			1 箇所

出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

## 2 菱池遊水地の上部整備有無による屋外スポーツ施設の充足度の比較・分析

「1 屋外スポーツ施設整備に向けた前提条件の整理」を踏まえ、本項では菱池遊水地の上部整備有無によって、幸田町の屋外スポーツ施設の充足状況がどのように変化するかを分析する。

なお、本分析では上部整備のうち、「サッカーコート（2面）」及び「テニスコート（5面）」を対象とする。

### （1）分析目的及び比較対象

菱池遊水地の上部整備有無を考慮した上で、幸田町が所有する屋外スポーツ施設と他自治体が所有する屋外スポーツ施設の整備状況を単純に比較することで、充足度およびその変化を把握することを目的とする。

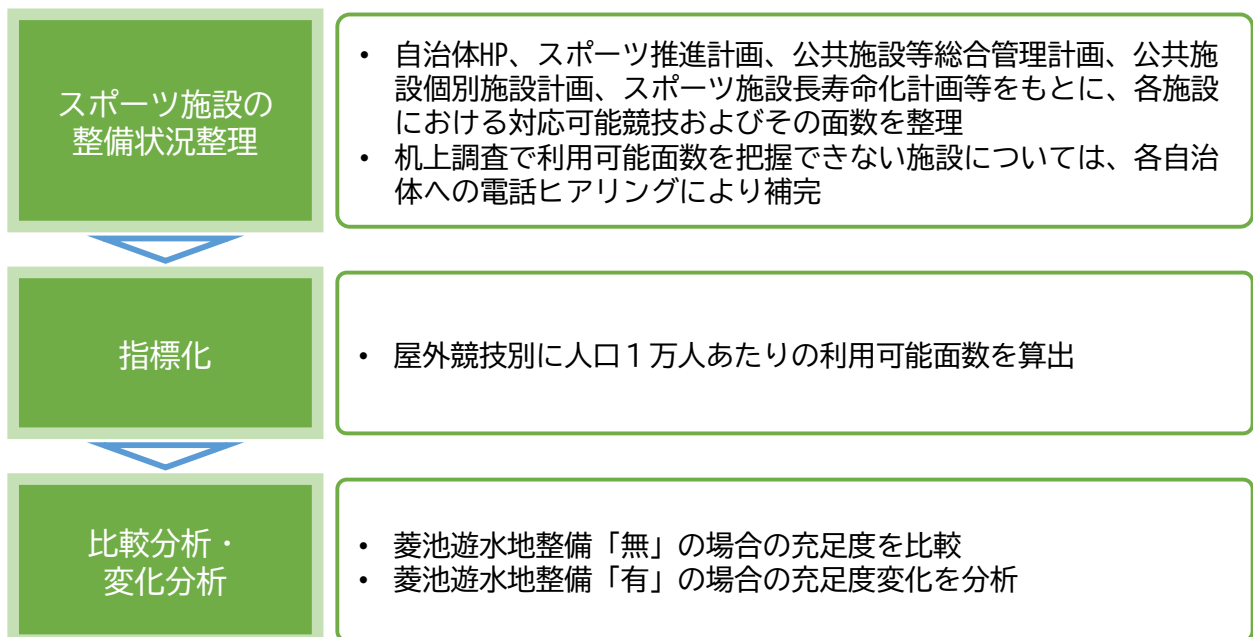
なお、本分析にあたっては各施設の利用可能面数を考慮する。

比較対象の自治体は、「第1章 3 屋外・屋内既存スポーツ施設に関する他自治体との比較・分析」と同様である。

### （2）分析手法及びフロー

本分析では屋外競技別（硬式野球、軟式野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、グラウンド・ゴルフ及びテニス）に「人口1万人あたりの利用可能面数」として指標化を行い、自治体間で比較・分析する。分析フローは図表3-2-1の通りである。

図表 3-2-1 本分析のフロー



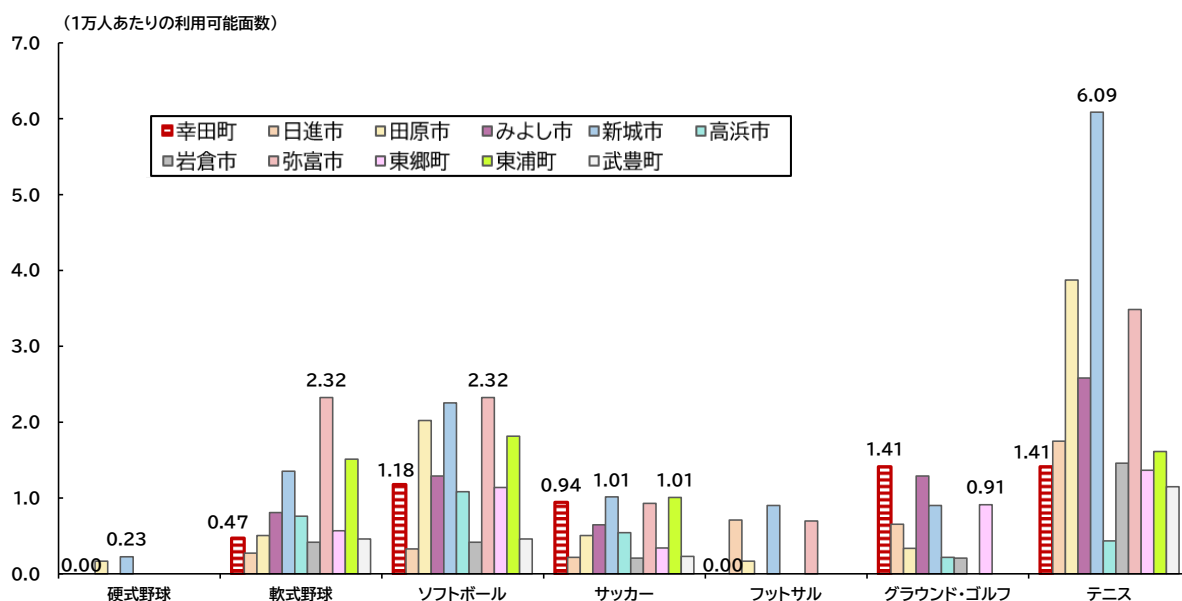
出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

### (3) 分析結果

#### ①上部整備「無」の場合

菱池遊水地上部整備「無」の場合の分析結果は図表 3-3-1 の通りである。幸田町は、「グラウンド・ゴルフ」で1位、「サッカー」で3位、「ソフトボール」で6位、「軟式野球」、「テニス」で8位となっている。

図表 3-3-1 上部整備「無」の場合の分析結果



出所：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが作成

また、各自治体の屋外競技別の指標値（1万人あたりの利用可能面数）及び順位は図表 3-3-2 の通りである。

図表 3-3-2 上部整備「無」の場合の分析結果一覧

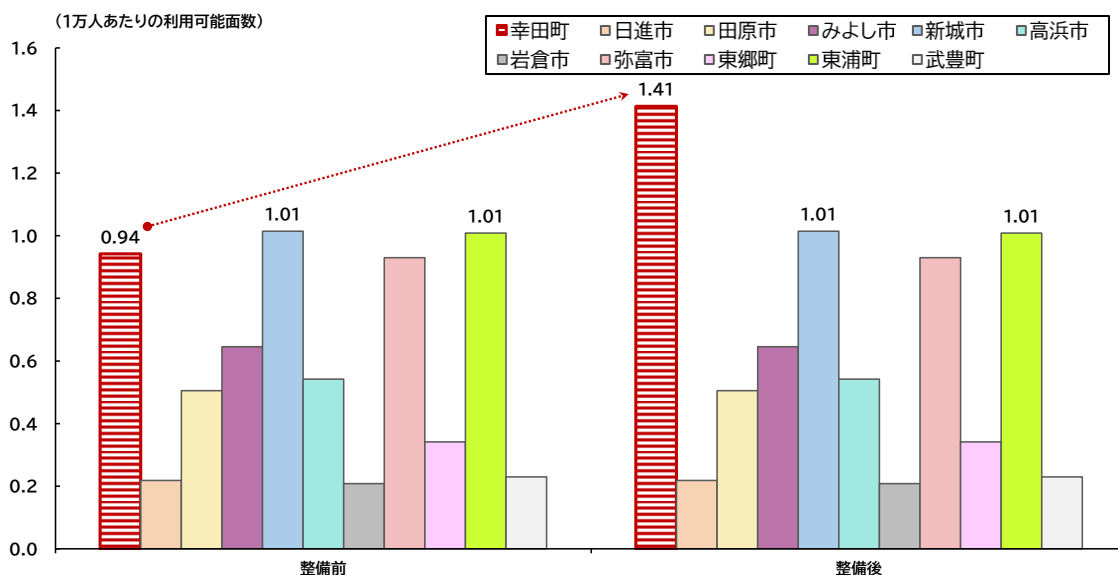
自治体名	硬式野球		軟式野球		ソフトボール		サッカー		フットサル		グラウンド・ゴルフ		テニス	
	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値	順位	指標値
幸田町	3	0	8	0.47	6	1.18	3	0.94	5	0	1	1.41	8	1.41
日進市	3	0	11	0.27	11	0.33	10	0.22	2	0.71	5	0.66	5	1.75
田原市	2	0.17	7	0.51	3	2.02	7	0.51	4	0.17	6	0.34	2	3.87
みよし市	3	0	4	0.81	5	1.29	5	0.65	5	0	2	1.29	4	2.58
新城市	1	0.23	3	1.35	2	2.25	1	1.01	1	0.9	4	0.9	1	6.09
高浜市	3	0	5	0.76	8	1.08	6	0.54	5	0	7	0.22	11	0.43
岩倉市	3	0	10	0.42	10	0.42	11	0.21	5	0	8	0.21	7	1.46
弥富市	3	0	1	2.32	1	2.32	4	0.93	3	0.7	9	0	3	3.49
東郷町	3	0	6	0.57	7	1.14	8	0.34	5	0	3	0.91	9	1.37
東浦町	3	0	2	1.51	4	1.81	2	1.01	5	0	9	0	6	1.61
武豊町	3	0	9	0.46	9	0.46	9	0.23	5	0	9	0	10	1.15

出所：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが作成

## ②上部整備「有」(サッカーコート2面)の場合

菱池遊水地の上部に「サッカーコート2面」を整備すると、幸田町の「サッカー」における指標値は1.41に上昇し、比較対象自治体の中で1位となる(図表3-3-3)。

図表 3-3-3 上部整備「有」(サッカーコート2面)の場合の充足度変化

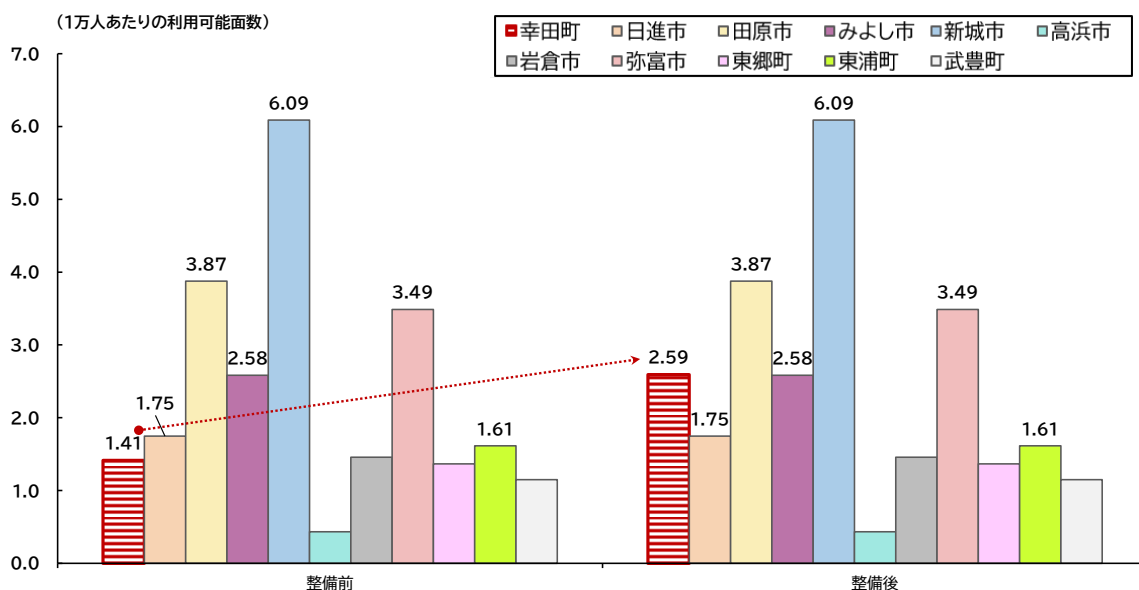


出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

## ③上部整備「有」(テニスコート5面)の場合

菱池遊水地の上部に「テニスコート5面」を整備すると、幸田町の「テニス」における指標値は2.59に上昇し、比較対象自治体の中で4位となる(図表3-3-4)。

図表 3-3-4 上部整備「有」(テニスコート5面)の場合の充足度変化



出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成

### 3 屋外スポーツ施設整備の方向性まとめ

(3)分析結果から、菱池遊水地の上部に「サッカーコート2面」及び「テニスコート5面」を整備すると、「サッカー」は1.5倍、「テニス」は約1.8倍、当該競技のキャパシティ（利用環境）が向上することがわかった。

テニスコートが同一施設に5面整備されることで、従来とは規模の異なる大会等の開催が可能になり、多くの誘客が期待できる。

サッカーとテニスの両競技の環境が同時に整備されることで、幅広い利用者層に効果が波及することが考えられる。このような効果を最大限波及させるために、菱池遊水地の上部の緑地運動公園とその周辺環境（インフラ、居住施設等）の整備促進が求められる。さらには、屋外スポーツ施設の周辺に地域課題の解決に資するような施設等（例：子どもの居場所）を隣接させることで、スポーツをする人以外にとっても必要な施設として、受け入れられる。



## 第4章 調査研究を終えて





## 第4章 調査研究を終えて

幸田町では、子どもから高齢者までが元気に暮らしていただけることを目指し、総合計画の基本理念を「みんなで作る元気な幸田」とし、基本計画の一つに「きたえよう！こころとからだ」と掲げ、誰もが生涯を通じて健康で心豊かな生活をし、生きがいのある人生を送るため、学校教育の充実や文化・スポーツに触れる機会をつくり、みんなでこころとからだをきたえる元気なまちづくりを進めている。

文化の分野にあっては、現在の幸田町郷土資料館が老朽化、狭隘化、資料の十分な保存環境並びに望ましい展示環境の確保が難しいなどの課題から、令和5年度に新博物館の構想を策定し、基本理念を「幸田の歴史と今を再発見し、みんなが幸せになる未来を探求する」と掲げ、幸田町の歴史・文化の将来像を定めた。そして、令和6年度はその基本構想をもとに、新博物館を具現化するための基本計画の策定作業を進めている。

スポーツの分野では、国の「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」においても、スポーツ・運動に関することが上位となっており、昨今の健康志向の高まりからこの数年間は、スポーツによる社会の豊かさや生活の質、満足度に注目していくことが重要視されている。

このような中、今回の調査は、幸田町のスポーツ分野における今後の方向性を見出すための基礎調査とすることを目的とした。以前から町民によるスポーツ施設充実の要望があることから、予約・利用状況の分析、スポーツ施設利用者アンケート調査及び他自治体との比較により、現状把握と課題整理を行い、類似自治体の施設や先進事例の情報収集、総合体育館の建設にかかる費用・手法の検討を行った。

人口1万人当たりの施設数における県内他自治体（類似自治体）との比較では、バスケットボール・バレーボールの屋内施設及びテニスコートは、いずれも平均的であり、特段、幸田町の施設数が不足しているという結果とはならなかった。

一方で、今回行ったスポーツ施設利用者のアンケート調査では、テニスコート、勤労者体育センター（体育館）の予約・施設改善の声が多かった。本調査結果におけるスポーツ施設予約時の抽選状況をみると、当該施設の当選率は概ね20%で、5人に1人しか利用できておらず、アンケート調査を裏付ける結果となった。

類似自治体と比較し平均的な施設数であるにもかかわらず、スポーツ施設利用者のアンケート調査と予約状況から見ると、利用者のニーズに対して施設内容が満たされていないと考えられ、ニーズの把握の重要性も感じた。また、屋内施設については、「施設が狭く、観客席もないため、スポーツ大会が開催できない」という課題も有している。

現在、愛知県の事業として検討が進められている「菱池遊水地上の緑地運動公園」が新設されれば、複数のコートがあるテニスコートや専用サッカー場として利用することにより、屋外施設に対

する要望、特にテニス場利用者からの「予約がいっぱいで取れない。」「一つのテニス場にコート数が少なくて大会の開催ができない。」といった不満は大きく解消されることが期待される。

このことから、屋外施設の充足については一定の改善が期待できることから、屋内施設の充実が課題となる。

この課題の解決には、既存施設の利用拡充と新しい屋内施設（総合体育館）の建設が考えられる。既存施設の利用拡充としては、まず学校体育施設の利用が考えられるが、既に学校体育施設のスポーツ開放は実施されており、既存の利用者で飽和状態のため新たな受入れの余地がないのが現状である。その他の既存施設としては、町内企業の体育館を借用することが手段の一つとも考えられる。コロナ禍以前には、町やスポーツ協会主催の大会や地元地区のイベントなどで借用していた実績もあり、借用による大会会場の確保の可能性はある。しかし、コロナ禍では企業内に部外者が入ることが厳しく制限され、公共の体育施設の利用が再開された後も利用できない期間があったため、安定的な施設の確保には課題があることがわかった。

総合体育館の新設については、近隣の類似自治体を参考とする昨今の一般的な規模の総合体育館の建設費において、当然、附帯施設機能により大きく変わるものの、本体工事費のみで40億円弱から50億円余りと莫大な費用を要することがわかった。このことから、スポーツ施設としての体育館というだけでなく、多目的な機能を担う複合施設としての整備・運営をしている先進事例を確認できたことは大きな成果と感じる。今後は、スポーツ分野に限らず、町が抱える課題やニーズを把握し、それらを解決するという視点が総合体育館の検討において不可欠である。そして、施設の整備だけでなく、新しいスポーツの紹介や日頃からスポーツに親しんでいない人への働きかけなど住民の活動を盛り上げていくような仕組み、運営手法や活動内容も含めた検討も重要となる。今回の調査により、利用者の声や類似自治体との比較、また、総合体育館建設における費用や手法を把握することができ、幸田町におけるスポーツ施設の現状の課題を改善するための貴重な参考資料となった。

今後は、新博物館の基本構想・基本計画、本調査結果を活用して、文化施設及びスポーツ施設の充実に向けて、計画的で実効性のある検討を進めていきたい。

## 調査研究委員会名簿



**愛知県幸田町**  
**スポーツ施設等の充実を図るための調査研究**  
**委員会名簿**

委員長	中村 郁博	東洋大学大学院 経済学研究科 教授
委員	三井 政昭	公益財団法人岡崎市スポーツ協会 元理事長
	黒柳 孝夫	幸田町文化財保護委員会 委員長
	丹羽 雅英	幸田町立図書館 前館長、元小中学校長
	須原 清俊	幸田町スポーツ協会 理事長
	金子 忠則	幸田町スポーツ推進委員会 委員長
	廣野 房男	幸田町議会議員・総務教育委員会 委員長
	内田 守	幸田町 企画部長
	菅沼 秀浩	幸田町教育委員会 教育部長
	日向 和史	一般財団法人地方自治研究機構 調査研究部長

事務局	柴田 淳一	幸田町 企画政策課 課長
	石川 純子	幸田町 企画政策課 主幹
	夏目 守雄	幸田町教育委員会 文化スポーツ課 次長兼課長
	小塚 弘樹	幸田町教育委員会 文化スポーツ課 課長補佐
	近藤 直樹	幸田町教育委員会 文化スポーツ課 主査
	志賀 光浩	幸田町教育委員会 文化スポーツ課 特命専門員
	今村 真二	一般財団法人 地方自治研究機構 主任研究員
	杉浦 海輝	一般財団法人 地方自治研究機構 研究員

**基礎調査機関**

上田 義人	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	主任研究員
大和田 康一	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	研究員
植木 瞭	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	研究員

(順不同)



## 委員長コメント





## 委員長コメント

本「スポーツ施設等の充実を図るための調査研究」では、具体のスポーツ施設整備が想定されているわけではなく、「新たなスポーツ施設の建設の是非や機能、その目指すべき姿の検討に向けた事前準備として、必要な検討材料や考えられる選択肢等を整理することをねらい」としている。従って、最終的に具体の結論に至っているわけではなく、今後、幸田町がスポーツ施設の検討を行う際に、下支えする基礎的情報を分析、整理したものである。

このように証明すべき命題がない中での分析、考察は、的が絞ることができなく、委員会において議論を収斂させていくことは難しかった。しかし、各委員の、深い見識と、何よりも幸田町と周辺エリアにおけるスポーツや文化に関する多くの経験に基づき、毎回の委員会議論は正鵠を突いたものになっていた。同時に、各委員から提議される問題を誠実に検討し、結果を提示し続けた事務局の功績も大きく、最終的に当初期待どおりの成果を取りまとめることができた。各委員、事務局には、深く感謝申し上げます。

さて、委員会の中で意見としては出ていたものの、上記主旨に基づき本報告書には記載されなかったものの、今後、幸田町がスポーツ施設整備の具体を進める際には検討すべき要点を、最後に委員長コメントとして残しておきたい。

### (1) 公共施設としてのスポーツ施設の特徴に関する理解

スポーツ施設は、地域での社会的便益を拡大することが可能である。運動を通じた住民の心身における健康増進に留まらず、コミュニティ活動の活発化や、地域への愛着（地域アイデンティティ）の醸成など、貴重な無形資産を形成していく。特徴であるのは、これが経済的利益も産み出しやすい点であろう。多くの場合、住民がスポーツ施設を利用するには利用料金の支払いという経済行為が発生する。このほか、スポーツイベントに企業からの協賛金や住民も加えた寄付金が寄せられることも多々ある。この社会的便益をもたらす施設が自ら経済的利益も産み出し得る特徴を正しく理解し、これを最大活用することが望ましい。

### (2) 地域課題を解決するためのスポーツ施設のあり方の検討

次に、社会的便益が拡大し得るという特徴を使い、どの地域課題を解決するのかを整理する必要がある。今後、公共施設として幸田町が整備する際には、具体のスポーツ施設にて、政策的に何を達成したいのかを明確にすることが求められる。この過程にて、政策目的の観点から別の公共施設の整備や活用、そして他の施策の方が有利であれば、そちらを採用すべきである。スポーツ施設の整備そのものが政策目的にはならないことを確認しておく必要がある。

### (3) スポーツ施設の運営手法の検討

前述のとおり、スポーツ施設において何を実施していくのかが、政策目的の達成に向けては重要となる。公共施設においては整備より運営の方が重要であり、難しいというのは一般的にも認識されていると思われるが、不動産の中でも運営の巧拙により利用者数も同満足度も、そしてそれらの積である利用価値（民間事業者であれば売上高となる。公共施設であれば、評価基準として売上高は不適切の場合もあるが、利用料金を市場形成させなくとも（公費負担で運営したとしても）施設の利用価値は重要となる。）が大きく変化するスポーツ施設においては、特に運営の重要性は高くなる。また、単なる運営手法に留まらず、どのようなコミュニティ活動や教育活動を醸成していくのか、どのような福祉政策を実現していくのか等、スポーツ施設が有する可能性や期待される成果の幅は大きく、これらを実現させるためには運営の工夫が求められる。

### (4) 町民のニーズ把握や合意形成

以上のように、スポーツ施設が有する可能性は幅広い。この中にある多くの選択肢の中から、何を選ぶのが重要となる。しかし、選択肢が多く、評価軸も多いだけに、合理的に絞り込むことが難しいのも事実であろう。この複雑な解を導き出せるものの一つは、便益享受者であり、費用負担者（税負担者）である町民である。従って、幸田町民は何を求めているのかを把握することが重要となる。一方で、町民ごとに抱えている課題も様々であるため、スポーツ施設に求めるものが多様なことも往々にしてある。従って、スポーツ施設において幸田町は何を実現するべきかの町民の合意形成を図ることが肝要である。

### (5) 地域企業（施設）との連携

町民にスポーツ施設を提供し社会的便益を拡大する公共政策を実施する場合、幸田町が自ら公共施設を整備する以外にも選択肢はある。一般的な公民連携（PPP）であれば、民間事業者が幸田町に代わり整備し、町が民間事業者からサービス（施設ではなく施設利用の機会）として購入し幸田町民に提供することも可能である。これは、民間事業者が専らに公共サービスを提供する施設を整備するものであり、一つの地域企業との連携の形となる。また、スポーツ施設の場合、柔軟にこれ以外の手法も考えられる。例えば、既に民間事業者が有しているスポーツ施設の利用枠（時間）を町が買い取り、住民に提供することも考えられるだろう。町が有している利用枠の時間だけでも公の施設とすることも可能であるし、公共サービス化することも可能である。加えて、企業版ふるさと納税のシステムを活用し、町内の企業、あるいは周辺エリアの企業から町が寄付金を受け取ること（当該企業は、税額控除）も委員会内で議論したとおり検討可能である。最後に、今後の財政逼迫の懸念の高まりの中で求められる同効率化においては、新しく施設を作るだけでなく、民間事業者が有する既存施設の有効活用（相応の費用負担に基づく共同利用化）も、有効な選択肢になり得るとと思われる。

以上のように、スポーツ施設の特殊性も背景に、同施設整備、あるいは同施設利用機会の提供においては、様々な目的や課題、そして手法がある。これら複数の選択肢からの組み合わせは、具体のスポーツ施設の検討において、考察され地域内調整が進んでいくものと思われる。単なるスポーツ施設の整備にとどまらず、スポーツ施設の財としての特徴を上手く活用した、より大きな目線からの町政戦略が重要になると思われる。

以上、今後の検討に活用いただければ幸いである。

令和7年3月

東洋大学大学院 経済学研究科  
教授 中村 郁博



## 參考資料



参考 1 幸田町のスポーツ施設利用者の声  
調査結果報告書





## 参考 1 幸田町のスポーツ施設利用者の声調査結果報告書

### 1 調査概要

#### (1) 調査目的

幸田町のスポーツ施設利用者から、スポーツの取組状況、スポーツ施設に対する要望等の声を拾うことで、スポーツ施設整備の方向性検討時の参考情報とする。

#### (2) 調査対象

幸田町のスポーツ施設(計 13 施設)及び一般開放された小中学校体育施設(計 9 校)の利用者

#### (3) 調査方法

##### ① 依頼方法

中央公民館、勤労者体育センター、町民プール、小中学校の体育施設(体育館・武道場・卓球場)にアンケート用紙及び回収ボックスを設置

※ スポーツ施設の利用料金支払い時には個別に依頼(中央公民館のみ)

##### ② 回答方法

###### 【WEB 回答】

アンケート用紙に記載された二次元コードまたは URL からアクセスして回答

###### 【紙で回答】

アンケート用紙に回答を記入し、上記の回収ボックスに投入

##### ③ 調査期間

令和 6 年 5 月 14 日(火) ～ 令和 6 年 6 月 13 日(木)

##### ④ 回収結果

106 件(うち WEB47 件、紙 59 件)

#### (4) 本調査における留意点

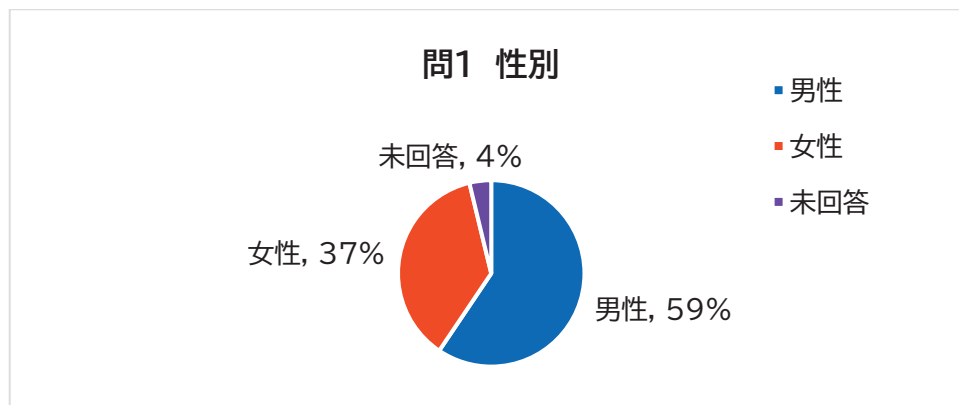
- ・本調査は、スポーツ施設の現利用者のみを対象として、その声を拾ったものであり、幸田町民の総意を定量的に調査・分析したものではないことに留意する必要がある。
- ・回答者は、テニスコートの利用者が多数を占めていることから、回答内容に一定のバイアスがかかっている可能性がある。

## 2 調査結果

### ① 性別

性別は、男性が59%、女性が37%、未回答が4%であった。

図表 参1-2-1 性別



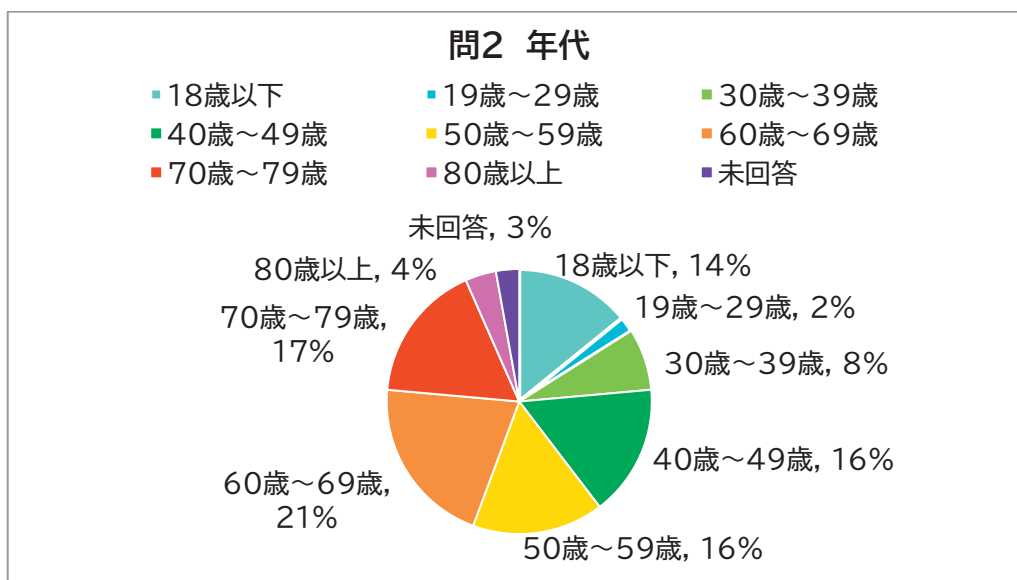
図表 参1-2-2 性別

	全体	男性	女性	その他	未回答
実数	106	63	39	0	4
構成比	100%	59%	37%	0%	4%

### ② 年代

年代は、60～69歳が21%と最も多く、次いで70～79歳が17%、40～49歳と50～59歳がそれぞれ16%であった。

図表 参1-2-3 年代



図表 参1-2-4 年代

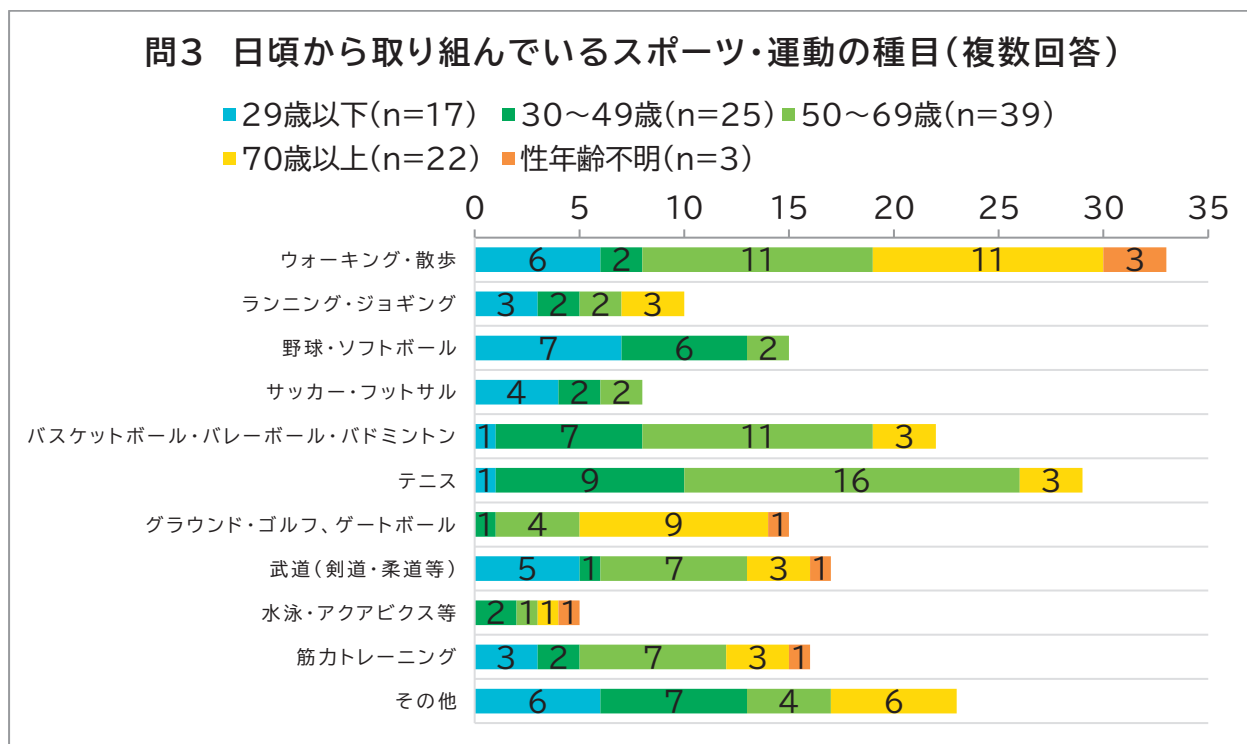
	全体	18歳以下	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	未回答
実数	106	15	2	8	17	17	22	18	4	3
構成比	100%	14%	2%	8%	16%	16%	21%	17%	4%	3%

### ③ 日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の種目とその頻度

日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の種目は、全体では「ウォーキング・散歩」「テニス」「その他（卓球、体操・ダンス・ヨガ等、弓道など）」の順に多い結果となった。

年代別では、29歳以下は「野球・ソフトボール」、30～49歳と50～69歳は「テニス」、70歳以上は「ウォーキング・散歩」が最多であった。

図表 参1-2-5 日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の種目

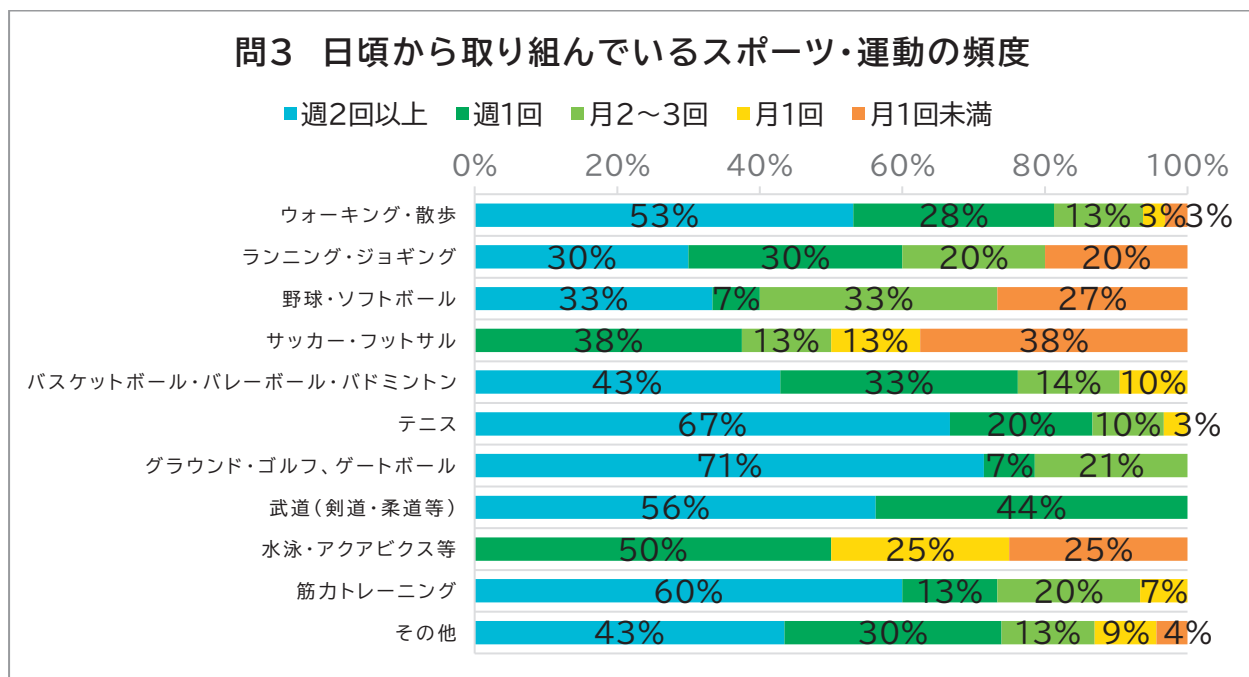


図表 参1-2-6 日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の種目

	ウォーキング・散歩	ランニング・ジョギング	野球・ソフトボール	サッカー・フットサル	バスケットボール・バレーボール・バドミントン	テニス	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	武道(剣道・柔道等)	水泳・アクアビクス等	筋力トレーニング	その他
全体(n=106)	33	10	15	8	22	29	15	17	5	16	23
29歳以下(n=17)	6	3	7	4	1	1	0	5	0	3	6
30～49歳(n=25)	2	2	6	2	7	9	1	1	2	2	7
50～69歳(n=39)	11	2	2	2	11	16	4	7	1	7	4
70歳以上(n=22)	11	3	0	0	3	3	9	3	1	3	6
性年齢不明(n=3)	3	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0

また、その頻度は、大半の種目において「週2回以上」が最多となっており、スポーツ・運動に積極的に取り組んでいる様子が伺えた。

図表 参1-2-7 日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の頻度



図表 参1-2-8 日頃から取り組んでいるスポーツ・運動の頻度

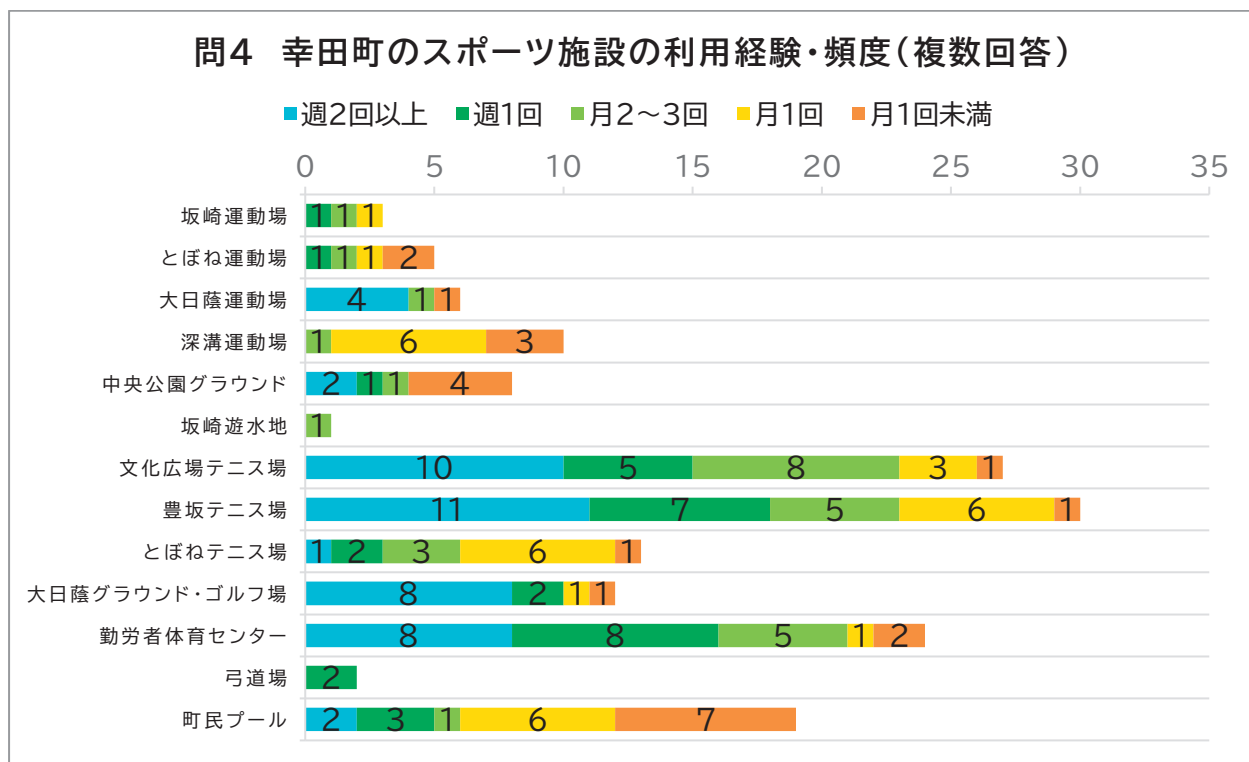
	人数	週2回以上	週1回	月2~3回	月1回	月1回未満
ウォーキング・散歩	32	17	9	4	1	1
ランニング・ジョギング	10	3	3	2	0	2
野球・ソフトボール	15	5	1	5	0	4
サッカー・フットサル	8	0	3	1	1	3
バスケットボール・バレーボール・バドミントン	21	9	7	3	2	0
テニス	30	20	6	3	1	0
グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	14	10	1	3	0	0
武道(剣道・柔道等)	16	9	7	0	0	0
水泳・アクアビクス等	4	0	2	0	1	1
筋力トレーニング	15	9	2	3	1	0
その他	23	10	7	3	2	1

#### ④ 幸田町のスポーツ施設の利用経験・頻度と利用目的

幸田町のスポーツ施設の利用経験は、「豊坂テニス場」「文化広場テニス場」「勤労者体育センター」の順に多い結果となった。

利用頻度でみると、「テニス場」「グラウンド・ゴルフ場」「勤労者体育センター」は週1回以上が多数を占め、「運動場」「町民プール」は週1回未満が多数を占めた。

図表 参1-2-9 幸田町のスポーツ施設の利用経験・頻度

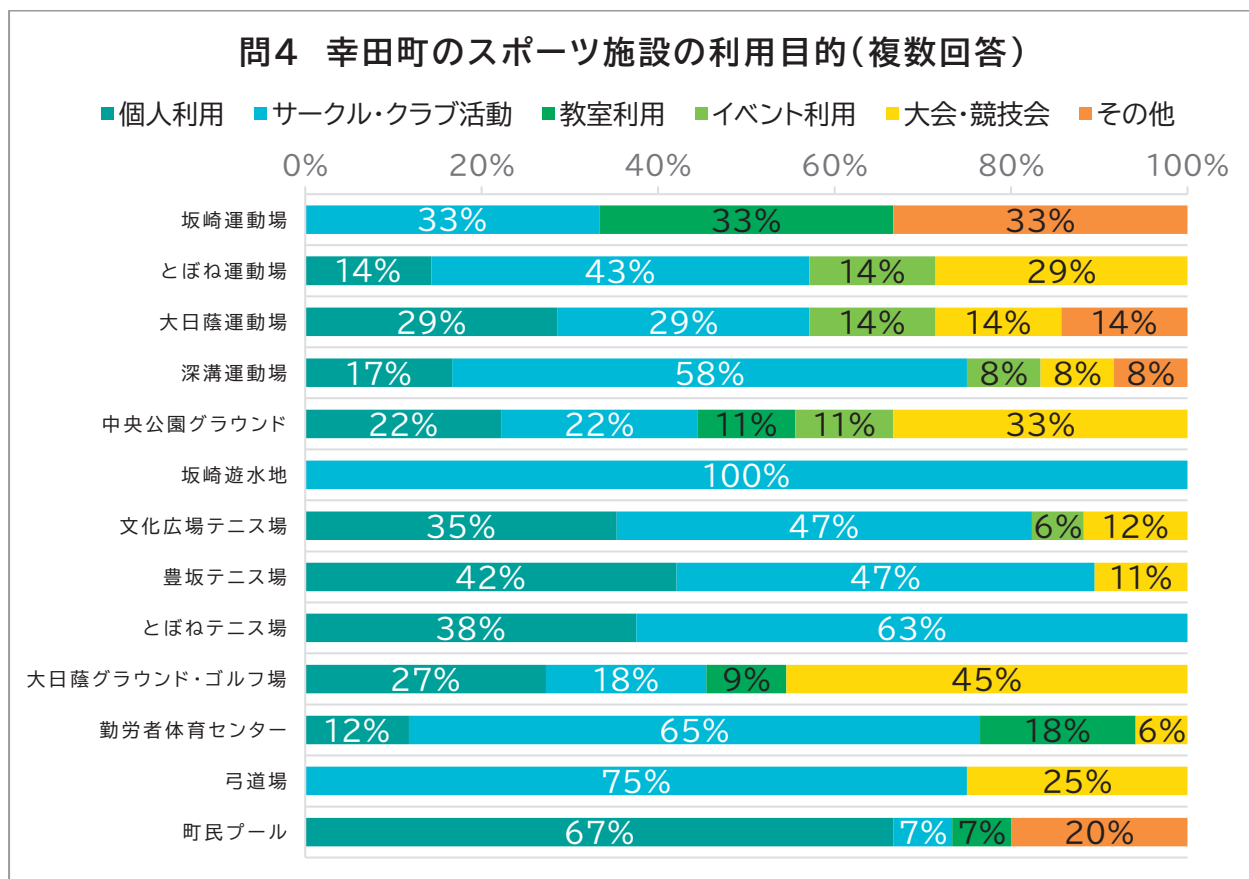


図表 参1-2-10 幸田町のスポーツ施設の利用経験・頻度

	利用経験あり	利用頻度				
		週2回以上	週1回	月2~3回	月1回	月1回未満
坂崎運動場	3	0	1	1	1	0
とぼね運動場	5	0	1	1	1	2
大日蔭運動場	6	4	0	1	0	1
深溝運動場	10	0	0	1	6	3
中央公園グラウンド	8	2	1	1	0	4
坂崎遊水地	1	0	0	1	0	0
文化広場テニス場	27	10	5	8	3	1
豊坂テニス場	30	11	7	5	6	1
とぼねテニス場	13	1	2	3	6	1
大日蔭グラウンド・ゴルフ場	12	8	2	0	1	1
勤労者体育センター	24	8	8	5	1	2
弓道場	2	0	2	0	0	0
町民プール	19	2	3	1	6	7

利用目的は、町民プールは「個人利用」、グラウンド・ゴルフ場は「大会・競技会」、それ以外の施設は「サークル・クラブ活動」が多数を占めた。

図表 参1-2-11 幸田町のスポーツ施設の利用目的



図表 参1-2-12 幸田町のスポーツ施設の利用目的

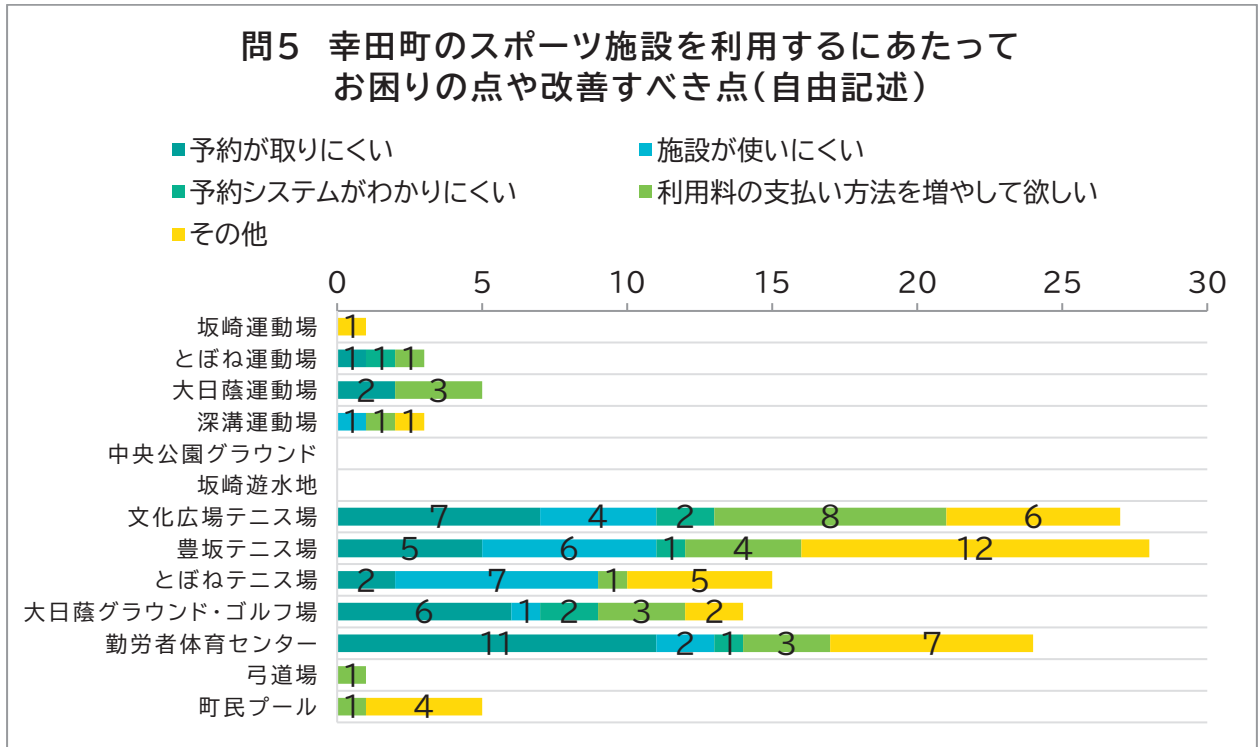
	個人利用	サークル・クラブ活動	教室利用	イベント利用	大会・競技会	その他
坂崎運動場	0	1	1	0	0	1
とぼね運動場	1	3	0	1	2	0
大日蔭運動場	2	2	0	1	1	1
深溝運動場	2	7	0	1	1	1
中央公園グラウンド	2	2	1	1	3	0
坂崎遊水地	0	1	0	0	0	0
文化広場テニス場	6	8	0	1	2	0
豊坂テニス場	8	9	0	0	2	0
とぼねテニス場	3	5	0	0	0	0
大日蔭グラウンド・ゴルフ場	3	2	1	0	5	0
勤労者体育センター	2	11	3	0	1	0
弓道場	0	3	0	0	1	0
町民プール	10	1	1	0	0	3

⑤ 幸田町のスポーツ施設利用時のお困りの点や改善すべき点

幸田町のスポーツ施設を利用するにあたって、お困りの点や改善すべき点をたずねたところ、豊坂テニス場に対して18件、文化広場テニス場に対して16件、勤労者体育センターに対して15件、とぼねテニス場に対して12件の意見が寄せられた。

勤労者体育センターとグラウンド・ゴルフ場では「予約が取りにくい」との意見が多く、テニス場では「施設が使いにくい」との意見が一定数みられた。

図表 参1-2-13 幸田町のスポーツ施設利用時のお困りの点や改善すべき点





図表 参1-2-14 幸田町のスポーツ施設利用時のお困りの点や改善すべき点

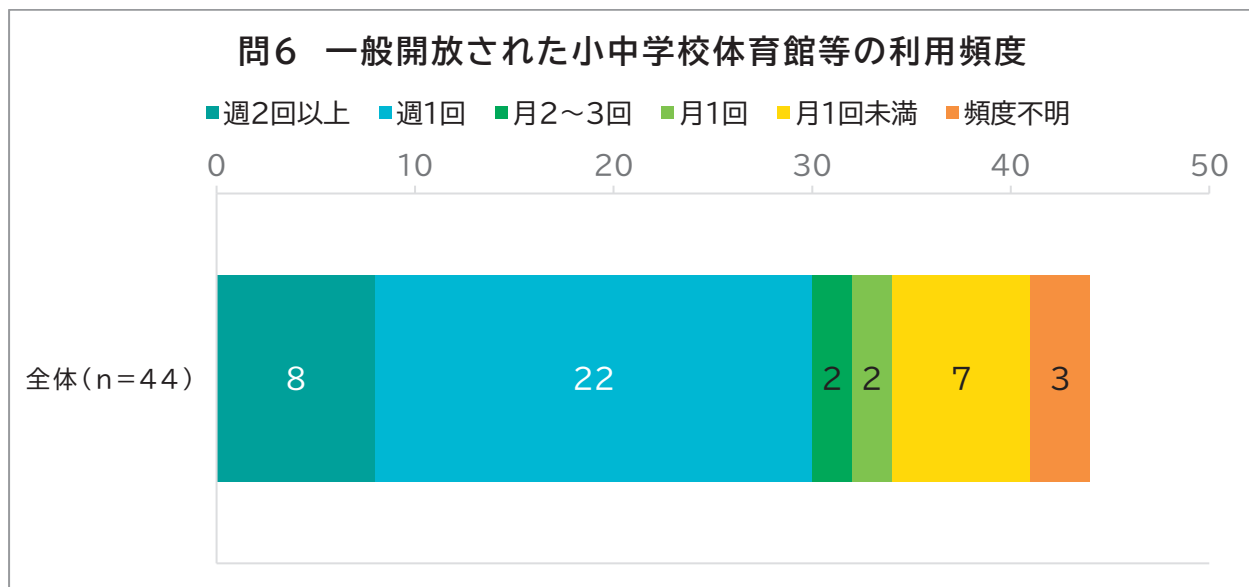
	件数	項目別内訳(※)				
		予約が取りにくい	施設が使いにくい	予約システムがわかりにくい	利用料の支払い方法を増やして欲し	その他
坂崎運動場	1	0	0	0	0	1
とぼね運動場	1	1	0	1	1	0
大日蔭運動場	3	2	0	0	3	0
深溝運動場	3	0	1	0	1	1
中央公園グラウンド	0	0	0	0	0	0
坂崎遊水地	0	0	0	0	0	0
文化広場テニスコート	16	7	4	2	8	6
豊坂テニスコート	18	5	6	1	4	12
とぼねテニスコート	12	2	7	0	1	5
大日蔭グラウンド・ゴルフ場	8	6	1	2	3	2
勤労者体育センター	15	11	2	1	3	7
弓道場	1	0	0	0	1	0
町民プール	5	0	0	0	1	4

(※) 一つの意見であっても、複数の項目にまたがるものは、それぞれ1とカウント。

⑥ 一般開放された小中学校体育館等の利用経験・頻度

一般開放された小中学校体育館等の利用経験ありは44人（106人中）、利用頻度は「週1回」が22件と最多であった。

図表 参1-2-15 一般開放された小中学校体育館等の利用経験・頻度



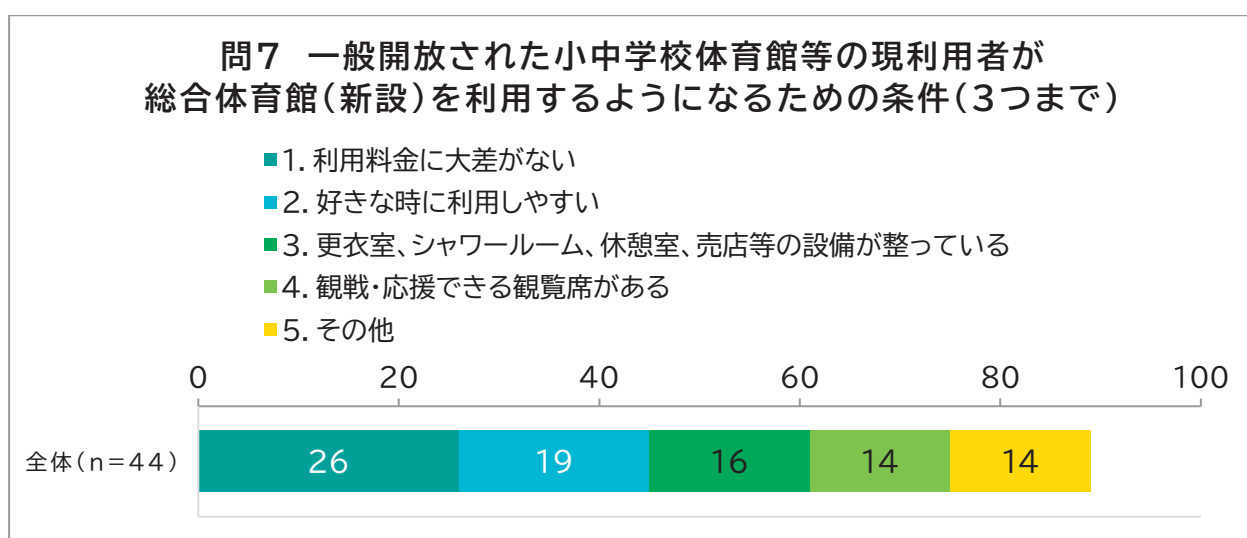
図表 参1-2-16 一般開放された小中学校体育館等の利用頻度

	利用経験あり	利用頻度					
		週2回以上	週1回	月2~3回	月1回	月1回未満	頻度不明
全体	44	8	22	2	2	7	3

⑦ 一般開放された小中学校体育館等の現利用者が総合体育館(新設)を利用ようになるための条件

今後新たに幸田町内に総合体育館が建設された場合、どのような条件を満たしていれば、一般開放された小中学校体育館等の現利用者が、小中学校体育館等ではなく、総合体育館の方を利用するようになるかをたずねたところ、「(小中学校体育館等と総合体育館の)利用料金に大差がない」が26件と最多、次いで「(小中学校体育館等よりも総合体育館の方が)好きな時に利用しやすい」(営業日・営業時間が幅広い、予約がとりやすいなど)が19件、「(総合体育館に)更衣室、シャワールーム、休憩室、売店等の設備が整っている」が16件となった。

図表 参1-2-17 一般開放された小中学校体育館等ではなく総合体育館を利用ようになるための条件



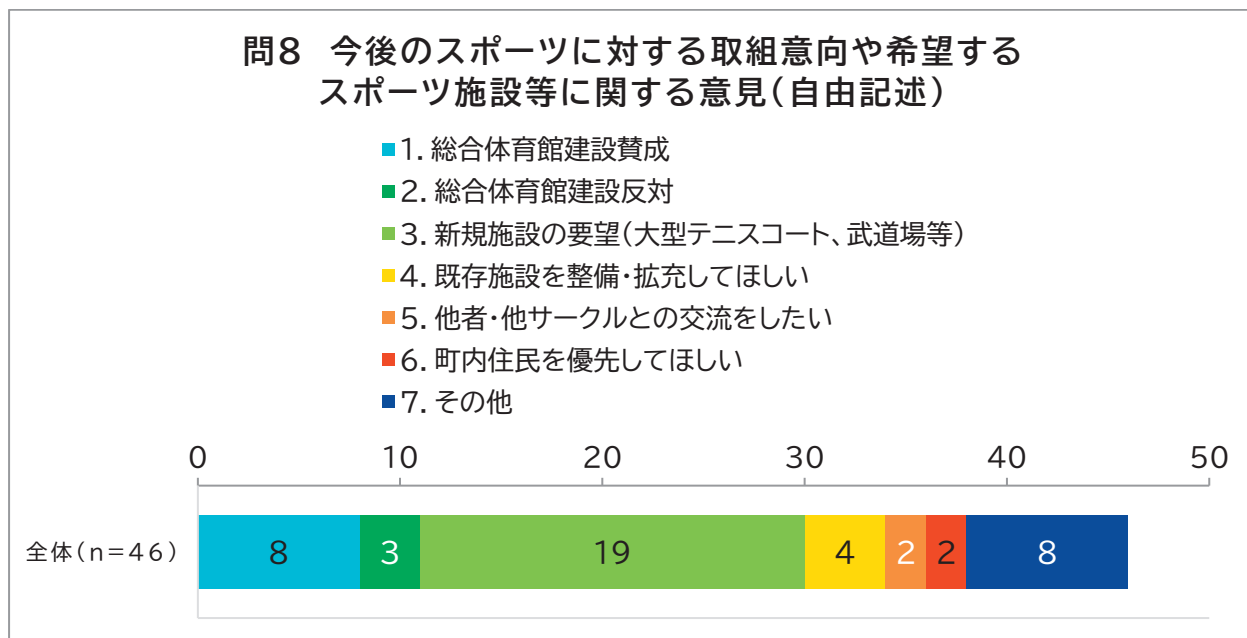
図表 参1-2-18 一般開放された小中学校体育館等ではなく総合体育館を利用ようになるための条件

	全体	1. 利用料金	2. 好きな時に利用しやすい	3. 更衣室、シャワールーム等設備	4. 観覧席	5. その他
全体(n=44)	89	26	19	16	14	14

⑧ 今後のスポーツに対する取組意向や希望するスポーツ施設等に関する意見（自由記述）

今後、取り組んでみたいスポーツや、幸田町内に新たに欲しいスポーツ施設等に関する自由意見をたずねたところ、総合体育館や新規施設に対する要望の声が多数を占めた。

図表 参1-2-19 今後のスポーツに対する取組意向や希望するスポーツ施設等に関する意見



図表 参1-2-20 今後のスポーツに対する取組意向や希望するスポーツ施設等に関する意見

	全体	1. 総合体育館建設賛成	2. 総合体育館建設反対	3. 新規施設の要望(大型テニスコート、武道場等)	4. 既存施設を整備・拡充してほしい	5. 他者・他サークルとの交流をしたい	6. 町内住民を優先してほしい	7. その他
全体(n=46)	46	8	3	19	4	2	2	8



## 参考2 文化施設に関する現状等の整理について



## 参考2 文化施設に関する現状等の整理について

幸田町では、平成28年度から10年間の幸田町が目指すべき将来像等を定めた第6次幸田町総合計画において、「きたえよう！こころとからだ」と掲げ、町を挙げてスポーツや生涯学習に取り組み、住民が健康で文化的な暮らしを送ることを推進することとしている。それに沿って、スポーツ施設として「菱池遊水地上の緑地運動場」及び「総合体育館」、文化施設として「(仮称)幸田町郷土博物館」の新設の検討が進められてきた。

ここでは、幸田町における既存の文化施設の概要と、これまでの「(仮称)幸田町郷土博物館」の検討状況について整理する。

### 1 幸田町における文化施設の概要

幸田町には、町民の生涯学習を推進するための主な文化施設として、「ハピネス・ヒル・幸田」、「幸田町郷土資料館」、「さくら会館」、「公民館（計9施設）」が存在する。

各施設の概要は以下のとおりである。

#### (1) ハピネス・ヒル・幸田

##### ア 図書館

図書館は、ハピネス・ヒル・幸田を構成する施設の一つとして、平成8年1月に開館した。以来、「知の拠点」として、また、「地域住民の憩いや交流の場」として、町民を始め近隣市民など多くの人に利用されている。

図表 参2-1-1 幸田町立図書館



出所：ハピネス・ヒル・幸田ホームページより



平成18年4月からは、町の指定管理者制度の導入に伴い、幸田町文化振興協会が管理・運営を受託している。建物は、地下1階地上2階、延床面積2,970.67㎡で、214,360冊（令和5年度時点）を所蔵している。

#### 施設概要

施設名称	幸田町立図書館		
所在地	幸田町大字大草字丸山8番地	地下1階	537.38㎡
建築面積	1,591.88㎡	地上1階	1,369.71㎡
延床面積	2,970.67㎡	地上2階	1,069.58㎡
電話	63-0001（FAX）63-0654	開館日	平成8年1月5日
建築構造	鉄筋コンクリート造、地下1階地上2階建		
設備概要	地下1階	閉架書庫、図書整理作業室、公用車庫庫 他	
	地上1階	おはなしのへや、児童コーナー、視聴覚コーナー、レストルーム 休憩・雑誌コーナー、ブラウジングコーナー、ギャラリー 事務室、対面朗読室、和室閲覧室、コントロールカウンター 他	
	地上2階	ブラウジングコーナー、サテライトカウンター、一般閲覧室 特別閲覧室、学習閲覧室（ハイビジョンシアター）、会議室 他	
蔵書数	214,360冊（令和5年度時点）		

#### 利用概要

開館時間	午前9時～午後7時		
休館日	毎週月曜日（ただし、国民の祝日にあたるときはその翌日） 館内整理日（7、8、9、12月を除く月末平日） 特別整理期間（年間15日以内）、年末年始（12月28日～1月4日）		
貸出	個人	愛知県在住・在勤・在学者 図書10冊、視聴覚資料2点以内、期間15日以内	
	団体	館長が認める各種団体 図書100冊以内、期間30日以内	
返却	閉館中の場合、本に限りブックポストの利用も可能		

#### 貸出者数の推移

（単位：人）

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
貸出者数	99,555	105,450	105,636	81,122	107,141	107,474	114,617

## イ 町民会館

町民会館は、ハッピーネス・ヒル・幸田を構成する施設の一つとして、平成8年8月に開館した。以来、「文化の発信拠点」として、また、「地域住民の憩いや交流の場」として、町民を始め近隣市民など多くの人に利用されている。

図表 参2-1-2 幸田町民会館



出所：ハッピーネス・ヒル・幸田ホームページより

図書館と同様に、平成18年4月からは、町の指定管理者制度の導入に伴い、幸田町文化振興協会が管理・運営している。建物は、地下1階地上4階、延床面積9,992.92㎡である。

### 施設概要

施設名称	幸田町民会館		地下1階	1,694.19㎡
所在地	幸田町大字大草字丸山60番地		地上1階	5,557.94㎡
電話	63-1111		地上2階	2,337.23㎡
FAX	63-5186		地上3階	330.92㎡
建築面積	6,096.59㎡		地上4階	72.62㎡
延床面積	9,992.92㎡		開館日	平成8年8月30日
建築構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上4階建			
設備概要	さくらホール	固定席1,004席、車椅子席6席、親子席6席		
	つばきホール	固定席400席、車椅子席4席、親子席6席		
	あじさいホール	345.8㎡	和室	28畳

設備概要	大会議室	105.4 m <sup>2</sup>	談話室	70.8 m <sup>2</sup>
	第一中会議室	53.8 m <sup>2</sup>	スタジオ	26.0 m <sup>2</sup>
	第二中会議室	36.4 m <sup>2</sup>	喫茶室	143.8 m <sup>2</sup>
	小会議室	37.0 m <sup>2</sup>	衣裳展示室	102.1 m <sup>2</sup>
	その他	管理事務室、エントランス、機械室 他		

#### 利用概要

利用時間	午前9時～午後10時
休館日	毎週月曜日（ただし、国民の祝日にあたるときはその翌日） 特別清掃日、年末年始（12月28日～1月4日）

#### 利用者数の推移

（単位：人）

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
利用者数	129,298	132,150	131,267	47,134	66,358	81,110	106,272

## (2) 幸田町郷土資料館

幸田町郷土資料館は、菱池を中心に発展した「こうた」の歴史や文化に触れることができる施設として、昭和52年に開館した。以来、「幸田町の歴史・文化の拠点」として、多くの町民等に親しまれてきた。

しかしながら、開館から半世紀近くが経過したことによる施設の老朽化、延床面積が約264㎡であることに伴う狭隘化等の課題を抱えており、資料の十分な保存環境や望ましい展示環境を備えているとは言い難い状況にある。それらの課題等を踏まえ、現在、幸田町では、幸田町郷土資料館に代わる新たな施設として、「(仮称)幸田町郷土博物館」の新設の検討が進められている。

図表 参2-1-3 幸田町郷土資料館



出所：幸田町ホームページより

### 施設概要

施設名称	幸田町郷土資料館		建築面積	438㎡
所在地	幸田町深溝清水 36 番地 1		延床面積	264㎡
電話	62-6682		開館日	昭和52年3月
館内常設 展示物	原始～室町時代	東光寺遺跡、青塚古墳出土品、浄土寺の歴史等		
	江戸時代	菱池絵図、深溝松平家墓所、深溝城		
	明治～昭和時代	菱池の干拓：田船、足踏み脱穀機、ずりまんが、万石とおし等		
	昭和時代	昔の生活：足踏みミシン、カマド、有線電話、井戸等		
館外常設 展示	蒸気機関車主動輪、菱池排水ポンプ、広報用航空機H-13（ヘリコプター「ひばり」）、機材展示機（F86Fジェット機）、潜水艦「おやしお」イカリ、スクリー、105mm無反動砲 外			

利用概要

開館時間	午前 10 時～午後 5 時
休 館 日	毎週月・木曜日(ただし、祝日の場合は翌日以後の最初の休日でない日) 年末年始(12月28日～1月4日)

令和 5 年度利用者数

(単位:人)

館内	小・中学生	高校生・大学生	一般	計
	495	43	2,743	3,285

### (3) さくら会館

さくら会館は、「町民の健康の増進、文化の振興、福祉の向上を図るための生涯学習の場」として、昭和 58 年に開館して以来、多くの町民等に利用されている。

会館内に研修室 2 室、和室 2 室、ふれあいホールがあり、また、同一敷地内には、文化広場やテニスコート等の運動施設も備えている。

図表 参 2-1-4 さくら会館 研修室 1



出所：幸田町ホームページより

#### 施設概要

施設名称	さくら会館	建築面積	468.47 m <sup>2</sup>
所在地	幸田町大字芦谷蒲野 25 番地 1	建築年度	昭和 58 年 2 月
電話	62-7080	開館日	昭和 58 年 5 月 14 日
主な施設	研修室 2 室、和室 2 室、ふれあいホール、希望の塔、テニスコート（照明付） 2 面、はなの木広場		

#### 利用概要

開館時間	午前 9 時～午後 10 時
休館日	毎週月曜日（ただし、祝日の場合は翌日以後の休日でない日） 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

#### 令和 5 年度利用者数

（単位：人）

	第 1 研修室	第 2 研修室	椿の間	ふれあいホール	多目的広場	計
利用者数	4,744	2,254	4,417	8,266	36,038	55,719

注) 多目的広場の人数については、目視により計算

#### (4) 公民館

公民館は、「町民のふれあいと生涯学習の場」として、多くの町民等に利用されている。

昭和 47 年以降、各地区において地区公民館の建設が進められ、現在は 8 つの地区公民館と中央公民館とで、計 9 つの公民館を有している。

##### 【中央公民館】施設概要

施設名称	幸田町中央公民館		
所在地	幸田町大字菱池字黒方 78 番地	建築面積	1,416.0 m <sup>2</sup>
電話	63-1618	建築年度	平成 19 年 2 月
設備概要	ホール 2 室、会議室 4 室、研修室、講座室、防音室		

##### 【中央公民館】利用概要

開館時間	午前 9 時～午後 10 時
休館日	毎週月曜日(ただし、祝日の場合は翌日以後の休日でない日) 年末年始(12月28日～1月4日)

##### 【地区公民館】施設概要

建築年度	公民館名	所在地(幸田町大字)	構造	面積(m <sup>2</sup> )
昭和 47 年	須美公民館	須美字向屋敷 88 番地 2	RC	386.08
昭和 48 年	鷺田公民館	菱池字野々宮 102 番地 1	RC	560.16
昭和 49 年	坂崎公民館	坂崎字御屋敷 22 番地 1	RC	525.52
昭和 50 年	芦谷公民館	芦谷字神ノ前 27 番地 3	RC	545.09
昭和 51 年	六栗公民館	六栗字本郷 5 番地 1	RC	510.48
昭和 58 年	市場公民館	深溝字会下後 37 番地	RC	446.71
昭和 60 年	海谷公民館	深溝字上一木 16 番地	RC	473.13
平成 2 年	岩堀公民館	菱池字昆沙門 1 番地 1	RC	1,046.53

##### 【地区公民館】利用概要

利用時間	午前 9 時～午後 10 時
休館日	毎週月曜日(ただし、国民の祝日にあたるときはその翌日) 特別清掃日、年末年始(12月28日～1月4日)

## 利用者数の推移

(単位:人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中央公民館	18,393	19,375	36,245	39,799
坂崎公民館	3,507	3,926	5,510	5,036
鷺田公民館	8,910	10,031	10,072	10,687
岩堀公民館	9,740	12,249	14,610	14,669
芦谷公民館	2,931	3,289	4,287	4,834
市場公民館	1,744	2,752	4,076	5,850
海谷公民館	1,122	1,014	1,098	1,047
須美公民館	1,010	1,210	1,669	1,402
六栗公民館	1,173	1,210	2,077	1,643
合計	48,530	55,056	79,644	84,967

※延べ利用者数



## 2 「(仮称)幸田町郷土博物館」

現在の幸田町郷土資料館（以下、「現資料館」という。）は施設の老朽化や狭隘化などの課題を抱えており、現資料館に代わる新たな施設として、「(仮称)幸田町郷土博物館」（以下、「新博物館」という。）の検討が進められている。

ここでは、上位計画における新博物館の位置付け、これまでの検討の経緯、「(仮称)幸田町郷土博物館基本構想」（以下、「基本構想」という。）の概要等について整理する。

### (1) 上位計画における位置付け

幸田町のまちづくりの基本指針である総合計画（第6次幸田町総合計画 [2016～2025]）において、「みんなでつくる元気な幸田」という将来像のもと、参考2-2-1の目標及び計画を設定し、参考2-2-2の事項に取り組むこととしている。

図表 参2-2-1 第6次幸田町総合計画の基本目標及び基本計画

将来像 みんなでつくる元気な幸田	
基本目標（将来へ向かう6本柱）	基本計画（まちのあるべき姿）
1 いのちと暮らしをまもろぞ 【安全・安心】	1_生命、財産を守る体制が整備されている 2_安心して出かけられる 3_便利で安全な交通網が整備されている 4_安全な水の道が整備されている 5_良好な住環境が整備されている 6_快適に暮らせる都市施設が整備されている
2 自然豊かに美しく 【環境】	1_豊かな自然のあふれるまち 2_ごみが少なく、まちがきれい
3 幸田から全国へ 世界へ 【産業振興】	1_農業者がいきいきと働いている 2_ものづくり産業が成長し続けている 3_お店がにぎわっている 4_観光で訪れた人が楽しんでいる
4 お年寄りまでみんなが元気 【健康・福祉】	1_みんなが健康に暮らしている 2_安心して子どもを育てられる 3_障がいのある人とともに暮らしている 4_お年寄りが笑顔で元気に暮らしている
5 きたえよう！こころとからだ 【教育・文化】	1_未来を担う子どもたちがよい環境で学んでいる 2_いつだって、だれだって学べる 3_幸田の歴史、文化を大切にしている
6 みんなのちからで続くまち 【協働・参画】	1_性別にとらわれず個性と能力が発揮されている 2_地域の人々がつながっている 3_効率的で計画的な町政運営がされている

図表 参2-2-2 第6次幸田町総合計画5-3の主な取組

●歴史・伝統文化の継承	-歴史の伝承 -文化財の保護・活用
●文化の振興	-文化にふれる機会の充実 -文化施設の充実

また、地域の特徴を活かしながら自律的で持続的な社会を創生することを目的に策定した「第2期幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2021～2025）」では、参考2-2-3の目標及び戦略の方向を定め、参考2-2-4を講ずべき施策としている。

図表 参2-2-3 第2期幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標及び戦略の方向

目的 『人口増加維持（さらなる成長）と地域活性化』			
目標		戦略の方向	
基本目標	1	町ならではの仕事を育て、安心して働けるようにする	1-1 産業振興と就業機会の創出
	2	多様な人の流れを育て、町の魅力を高める	2-1 地域資源を生かした交流の推進
	3	子どもを育て、みんなを元気にする	3-1 子どもを産み育てる環境の整備
	4	つながる人と地域を育てる	4-1 地域コミュニティを醸成する 4-2 地域の自然を生かす <b>4-3 地域の歴史や文化を生かす</b> 4-4 地域の安全・安心を守る 4-5 なめらかなまちづくり
横断的目標	5	【横断的な目標1】 多様な人材の活躍を推進する	5-1 多様な人々の活躍による地方創生の推進 5-2 誰もが活躍する地域社会の推進
	6	【横断的な目標2】 新しい時代の流れを力にする	6-1 地域における Society5.0 の推進 6-2 地方創生 SDGs の実現等の持続可能なまちづくり

図表 参2-2-4 第2期幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略4-3の主な施策（抜粋）

●4-3-① 歴史・文化の保存・継承（抜粋）	-文化財の総合的な保存と活用（地域文化財の掘り起こし等） -郷土教育の拠点施設である町立博物館の建設（文化財保護、活用、郷土教育、観光資源等）
------------------------	--

これらのことから、幸田町の歴史・文化は、幸田町の将来像の実現において重視すべき要素であり、より望ましい展開に向けて、歴史・文化の様々な取り組みの拠点である新博物館を具体的に検討する必要がある。

## (2) 検討の経緯

幸田町では、令和3年度に「(仮称)幸田町郷土博物館建設検討委員会」(以下、「委員会」という。)を設けて、幸田町に適した新博物館の在り方について検討を重ねてきた結果、令和5年度に基本構想を策定するに至った。

委員会設置から基本構想策定までの経緯を、時系列順に以下に示す。

図表 参2-2-5 新博物館検討の経緯

年月	実施事項	主な検討・決定内容
令和3年		
9月	(仮称)幸田町郷土資料館建設検討委員会設置	
9月24日(金)	令和3年度第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土資料館の現状</li> <li>地域文化財の現状</li> <li>博物館建設の候補地</li> </ul>
令和4年		
1月26日(木)	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館施設の建設候補地</li> <li>博物館施設の方向性</li> <li>今後のスケジュール</li> </ul>
7月29日(金)	第3回委員会	・同上
令和5年		
1月24日(火)	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館施設の基本構想策定に向けて</li> <li>新博物館に求めること</li> <li>施設建設の手法</li> </ul>
7月7日(金)	令和5年度第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>リピーターづくり</li> <li>解説のあり方</li> <li>学校教育との連携</li> <li>子どもや体験を重視した施設づくりなど</li> </ul>
9月29日(金)	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新博物館に期待される役割</li> <li>事業活動における基本方針</li> <li>施設整備の方向性</li> <li>展示構想 など</li> </ul>
12月15日(金)	第3回委員会	・基本構想の各章の内容
令和6年		
1月16日(火)～ 2月15日(木)	パブリックコメント	・(仮称)幸田町郷土博物館基本構想について
2月22日(木)	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想の最終確認</li> <li>基本計画の策定に向けた意見交換</li> </ul>
3月	基本構想策定	
7月	幸田町新博物館建設検討委員会に組織替え(委員増員)	
7月1日(月)	令和6年度第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎幸田町新博物館基本計画の策定に向けて</li> <li>基本構想の確認</li> <li>事業活動計画案の検討</li> <li>展示計画案の検討</li> <li>ワークショップの実施について</li> </ul>

### (3) 基本構想の概要

前記(2)の経緯を経て、令和6年3月に新博物館の基本構想が策定された。

その主な内容は以下のとおりである。

#### ア 現資料館の現状と課題

現資料館について、博物館としての主要機能（収集保存、調査研究、展示、教育普及など）の視点から現状を整理した結果は、参考2-2-6のとおりである。

図表 参2-2-6 現資料館の現状

収蔵機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館自体には収蔵施設がない。倉庫として利用している施設は、敷地内の東側の倉庫1棟と物置。収蔵しきれない資料は町内の他施設を間借りしている。 倉庫1：埋蔵文化財資料、大型民具資料 倉庫2：土人形、小型民具資料 倉庫3：古文書資料 町内施設：埋蔵文化財資料、雛人形、土人形（武藤コレクション）、大型民具</li> <li>・収蔵資料（令和3年9月1日現在） 台帳12種類 約5,135点（民具942点、土人形893点、古文書約3,000点、ほか約300点） 埋蔵文化財215箱（東光寺遺跡、青塚古墳、深溝城跡、本光寺、幸田窯等）</li> <li>・近年の埋蔵文化財調査の増加により、発掘資料は加速度的に増加している。</li> <li>・収蔵スペースが小さいことから、寄贈等の申し出も既に収蔵されているものと同カテゴリーのものは断っている状況。</li> </ul>
調査研究機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内に埋蔵文化財整理室があるが、学芸員は常駐していない。</li> </ul>
展示機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ケース15台、エアタイトではなく密閉空間とできないため、展示できる資料に制限がある。</li> <li>・外光は一般的なブラインドで遮光し、施設として空調管理ができないため、外気がそのまま展示室内に流入している。来館者にとって、夏は暑く、冬は寒い環境。また、部屋の位置によっても温湿度が異なっている。</li> <li>・大空間をパーテーション、カーテン等で区切って展示ゾーニングを行っている。</li> <li>・施設の周辺には樹木が多く、虫の侵入等への管理が難しい施設となっている。</li> </ul>
教育普及機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及活動専用の諸室空間はなく、展示室内で展開されている。</li> </ul>

※現資料館に関する詳細は、1-（2）参照

また、来館者アンケートの結果等を踏まえた、現資料館の課題は以下のとおりである。

図表 参2-2-7 現資料館の課題

1.博物館としての基本機能の改善	1-1 収蔵機能、スペースの確保 1-2 学芸員等の実務スペースの確保 1-3 資料の公開および取扱いにおいて適切な展示環境の確保 1-4 適切な教育普及のためのスペースの確保 1-5 より充実した展示の展開 等
2.来館者にとってのわかりやすさの改善	2-1 施設の存在に関する情報発信、来館動線と誘導・案内の改善 2-2 入りやすさ、入ってみたいくなる施設の外観、入館促進の案内等の改善 等
3.来館者にとっての利便性・快適性の改善	3-1 館内の温湿度、靴の脱着、トイレ等、基本的な快適性・利便性の改善
4.要望	4-1 屋外の飛行機の展示の継続 4-2 資料館のグッズ展開 等

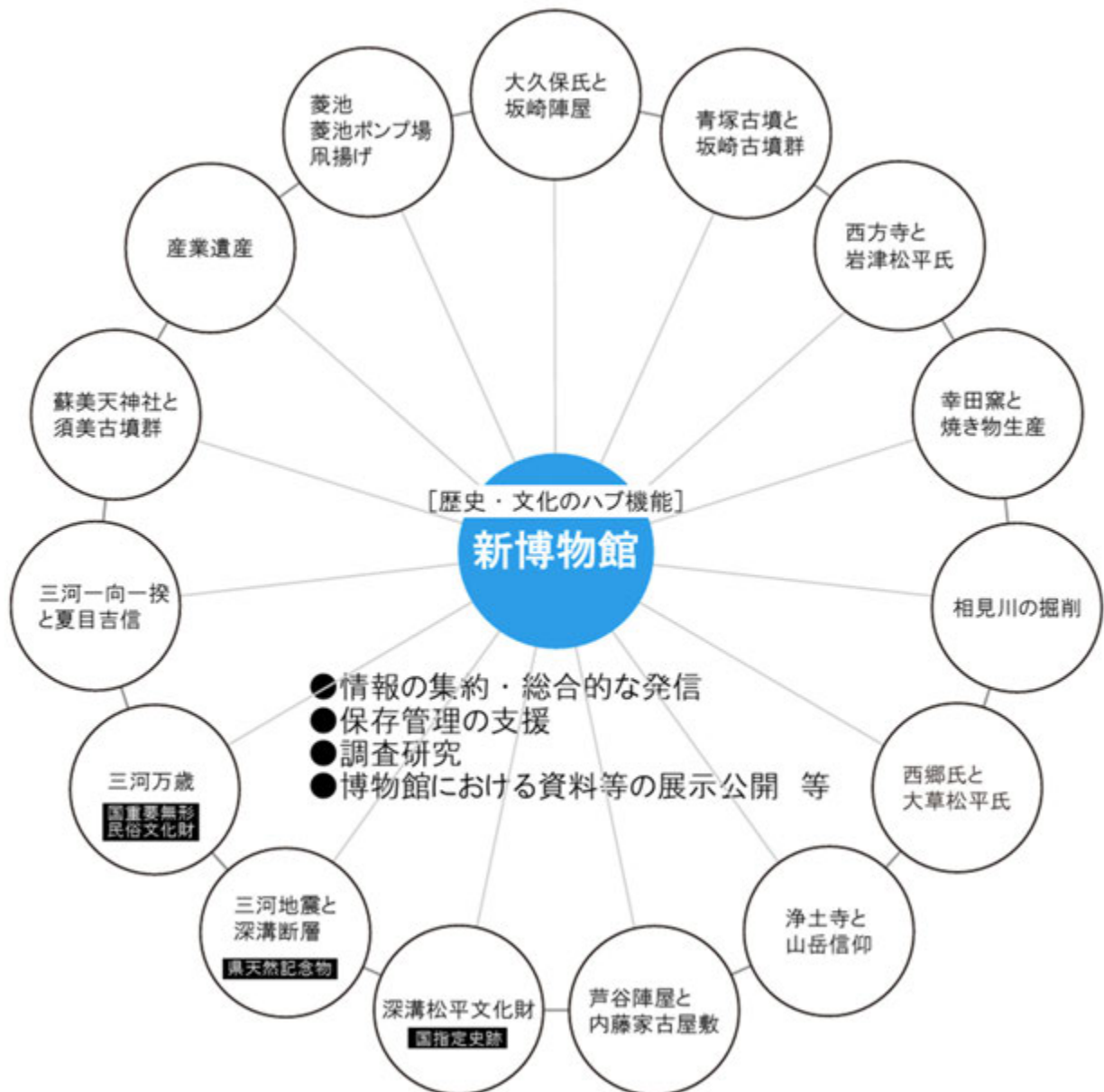
新博物館は現資料館のリニューアルという側面も有しているため、これらの現資料館が抱える課題等を踏まえた望ましい新博物館の在り方を検討する必要がある。

#### イ 新博物館に期待される役割

新博物館に期待される役割は、「絶えず動き続け、様々な視点から風景を眺めることができる観覧車」にたとえ、以下の3点とする。

- 幸田町の歴史・文化に関する「知の観覧車」
  - ・ 点在する文化施設のハブ機能（歴史・文化の中央センター）
  - ・ 幸田町の歴史・文化の魅力をわかりやすく伝え、情報と人をつなぐ場
  - ・ ハッピーネス・ヒル・幸田の新たな魅力を拡大する場
- 郷土・幸田町への誇りを醸成する場
  - ・ 未来を育む社会教育施設
  - ・ 時代に応じて柔軟に成長し、まちづくり・ひとづくりに寄与する場
- 「出会い」「学び」が幸せにつながる場
  - ・ 本物との出会いと学びが、豊かな生き方、幸せにつながる場

図表 参2-2-8 新博物館のハブ機能のイメージ図



### ウ 基本理念

現在をひも解き、未来を考えるために、歴史を学ぶことは非常に重要であるが、幸田町には今後の調査・研究が待たれるものも多くある。

そこで、町民及び施設に関わる人々と「ともに探求」する「ディスカバリー・ミュージアム」として、未来を発見、共有することで、幸せな未来を創出することを基本理念とする。

図表 参2-2-9 新博物館の基本理念

**幸田の歴史と今を再発見し、  
みんなが幸せになる未来を探求する**

## エ 想定する利用者層

新博物館は、参考2-2-10のような利用者層を想定しているが、特に、次世代を担う子どもたちを重視することとしている。

図表 参2-2-10 新博物館の利用者層

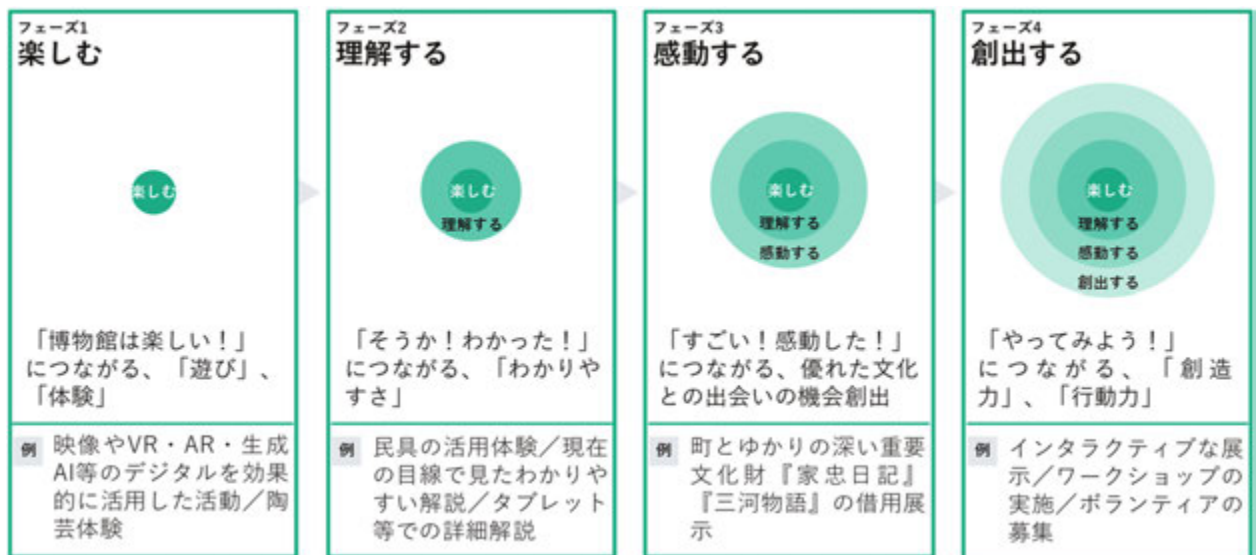
- ・ 幸田町の町民
- ・ 幸田町の子どもたち（学校団体、家族連れ）
- ・ 新たに幸田町に住まう人々
- ・ 幸田町を訪れる人々 等

## オ 事業活動における基本方針

基本理念の実現に向け、以下の基本方針に沿った事業活動を行う。

### ●理念の実現に向けた、利用者視点の四つのフェーズの重視

図表 参2-2-11 利用者視点の四つのフェーズ



### ●「成長する博物館」としての「柔軟性」、「拡張性」の重視

- ・ 収蔵庫・デジタルアーカイブを検討し、拡張性のある「成長する博物館」とする。
- ・ 収集・保存機能を確保するための柔軟な施設運用を検討する。
- ・ デジタルを活用した体験提供や資料の教育・観光活用などを図る。

### ●柔軟な発想と活動の展開を支える「連携」の重視

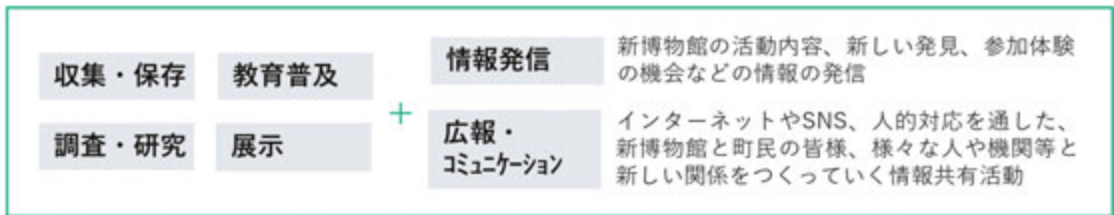
- ・ 町民会館や図書館と連携し、ハッピーネス・ヒル・幸田の新たな魅力拡大につなげる。
- ・ 規模を抑えつつ収蔵庫や展示室を充実させるため、町民会館や図書館と連携する。
- ・ 子どもたちの郷土への理解と愛着、誇りを醸成するため、学校教育と連携する。



## カ 事業活動構想

新博物館の事業活動では、「収集・保存」、「調査・研究」、「教育普及」、「展示」の4つの基盤活動に加え、「情報発信」、「広報・コミュニケーション」といった利用者サービスに取り組むことで、「新しく生み出されるこれからの博物館」として多くの利用者に広く親しまれ愛される博物館をめざす。

図表 参2-2-12 新博物館の事業活動

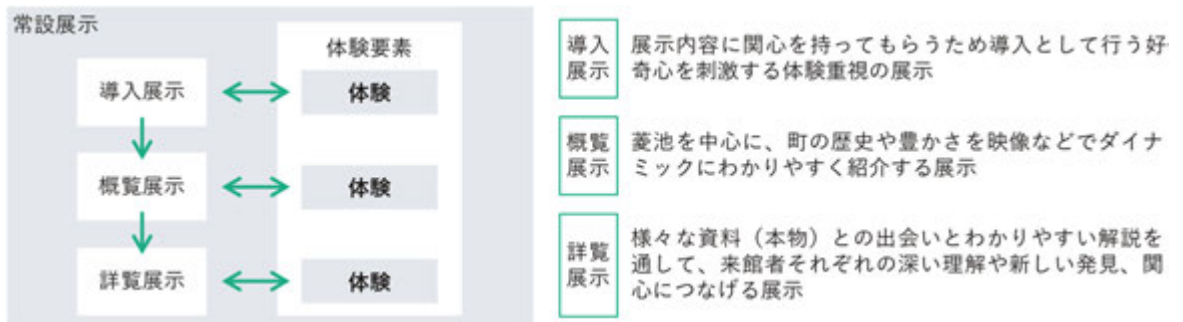


## キ 展示構想

新博物館は、利用者視点の四つのフェーズを重視しながら、あらゆる人々が楽しみながら、理解を深めていくことができる常設展示、企画展示などを行う。

常設展示は、導入、概覧、詳覧の展示を組み合わせ、また、触れたり遊んだりできる体験的な要素を取り入れる。

図表 参2-2-13 新博物館の展示構想



## ク 管理運営構想

新博物館の整備及び管理運営方式として、博物館の建設や資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育普及の各業務は、幸田町の直接運営を検討するとともに、より効果的な情報の発信や事務、施設管理などは、優れた技術や知見を持つ民間の力の導入を重視する。



#### (4) 今後の進め方について

幸田町では、令和5年度に策定した基本構想を踏まえ、令和6年度から委員会の名称を「幸田町新博物館建設検討委員会」に変更し、基本計画の策定と計画地の検討を進めることとしている。また、計画地が決定した後、建築及び展示設計を行い、その後、敷地造成工事、建築工事、展示工事を順次推進する予定である。

スポーツ施設等の充実を図るための調査研究

—令和7年3月発行—

幸田町 企画部 企画政策課

〒444-0192

愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1番地1

電話 0564-62-1111 (代表)

一般財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061

東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階

電話 03-5148-0661 (代表)



**リサイクル適性 (A)**

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。